

学校法人 実践女子学園

平成 24（2012）年度事業報告書

（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

## 目 次

<b>I 建学の精神、教育理念及び概要</b> . . . . .	<b>1</b>
◎建学の精神 . . . . .	1
◎本学の教育理念 . . . . .	1
◎学園第2世紀の教育使命 . . . . .	1
◎学園の概要 . . . . .	1
1 学園の目的 . . . . .	1
2 教育の趣旨 . . . . .	1
3 設置する学校及び所在地 . . . . .	2
4 沿 革 . . . . .	2
5 組 織 . . . . .	4
6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数 . . . . .	5
7 役員・評議員 . . . . .	7
8 教職員数 . . . . .	9
9 関係する会社 . . . . .	10
<b>II 平成24(2012)年度事業の概要</b> . . . . .	<b>11</b>
1 教育事業の推進 . . . . .	11
2 研究活動の推進 . . . . .	14
3 教育研究活動支援の推進 . . . . .	14
4 学生・生徒支援の推進 . . . . .	15
5 入試・広報の推進 . . . . .	16
6 創立120周年記念整備事業の推進 . . . . .	17
7 国際交流の推進 . . . . .	18
8 社会貢献・地域連携等の推進 . . . . .	19
9 卒業生向け活動の推進 . . . . .	20
10 建学の精神の高揚－創立者下田歌子顕彰事業 . . . . .	20
11 管理運営 . . . . .	21
12 施設設備の改修・更新等 . . . . .	23
13 財務計画 . . . . .	23
14 主な事業活動実績 . . . . .	25
15 参考資料 . . . . .	29
<b>III 財務の概要</b> . . . . .	<b>43</b>
決算書類等 . . . . .	43
1 資金収支計算書の状況 . . . . .	43
2 消費収支計算書の状況 . . . . .	43
3 貸借対照表の状況 . . . . .	44
4 収益事業決算の状況 . . . . .	45
5 今後の財政上の課題 . . . . .	45
消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移(平成20年度～平成24年度) . . . . .	47
1 消費収支の推移 . . . . .	47
2 貸借対照表の推移 . . . . .	47

## I 建学の精神、教育理念及び概要

### ◎建学の精神

本学の建学の精神は、学祖下田歌子が明治 32 年（1899 年）に設立した帝国婦人協会私立実践女学校規則第 1 条「本邦固有の女徳を啓発し、日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授し、賢母良妻を養成する」を継承しています。

### ◎本学の教育理念

下田歌子の遺訓に「女性の資質は、純一で慈愛に富み、その清らかな徳性とゆたかな情操をもって社会の弊を正し、広く世人に至福をもたらすことにある」と述べられています。

本学はこの資質の涵養につとめ内に剛、外に柔、時勢に即し適切な修練を重ね、絶えず進歩向上をはかり、世界の平和と人類の福祉とをめざして実践躬行、その任を果たすことをおののちに期待します。

よって本学は深奥な学術の研究と教授とを行うとともに、教養を深め知徳そなわり心身すこやかに、品格高雅な女性を育成しようとするものです。

（昭和 48 年 11 月 29 日第 6 回大学・短期大学合同教授会）

### ◎学園第 2 世紀の教育使命

上記のような学祖下田歌子の建学の精神に立脚して、学園第 2 世紀の教育理念を“品格 高雅にして自立自営し得る女子教育”としています。

大学・短期大学においては、幅広く深い教養と専門的学芸を考究する教育を、中学校高等学校においては、女子教育の伝統を踏まえた社会のニーズに応える教育を目標に掲げ、それぞれの教育使命を果たすべく教育研究の活性化や経営改善への取り組みを積極的に進めています。

[大学・短期大学の教育使命]

(1) 幅広い職業人養成 (2) 総合的教養教育 (3) 生涯学習 (4) 社会貢献

[中学校高等学校の教育使命]

(1) 質素・堅実を踏まえた品格ある女子教育の堅持 (2) 社会の変化を踏まえた女子教育の構築

### ◎学園の概要

#### 1 学園の目的

教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神及び上記の教育使命に基づいた学校教育を行っています。そして、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを実践し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的として、現在、本学園は実践女子大学、実践女子短期大学、実践女子学園高等学校、実践女子学園中学校の 4 校を設置しています。

#### 2 教育の趣旨

建学の精神である女性の資質の涵養と品格ある女性の育成を目指して実学を中心に教授し、広い教養を持って自立し社会の一員としての責任を果たす人材を育ててまいります。また、常に自己点検・評価を行って自ら改善を図るとともに、それらを公表して社会的責任を果たし、さらなる前進を図ってまいります。

### 3 設置する学校及び所在地

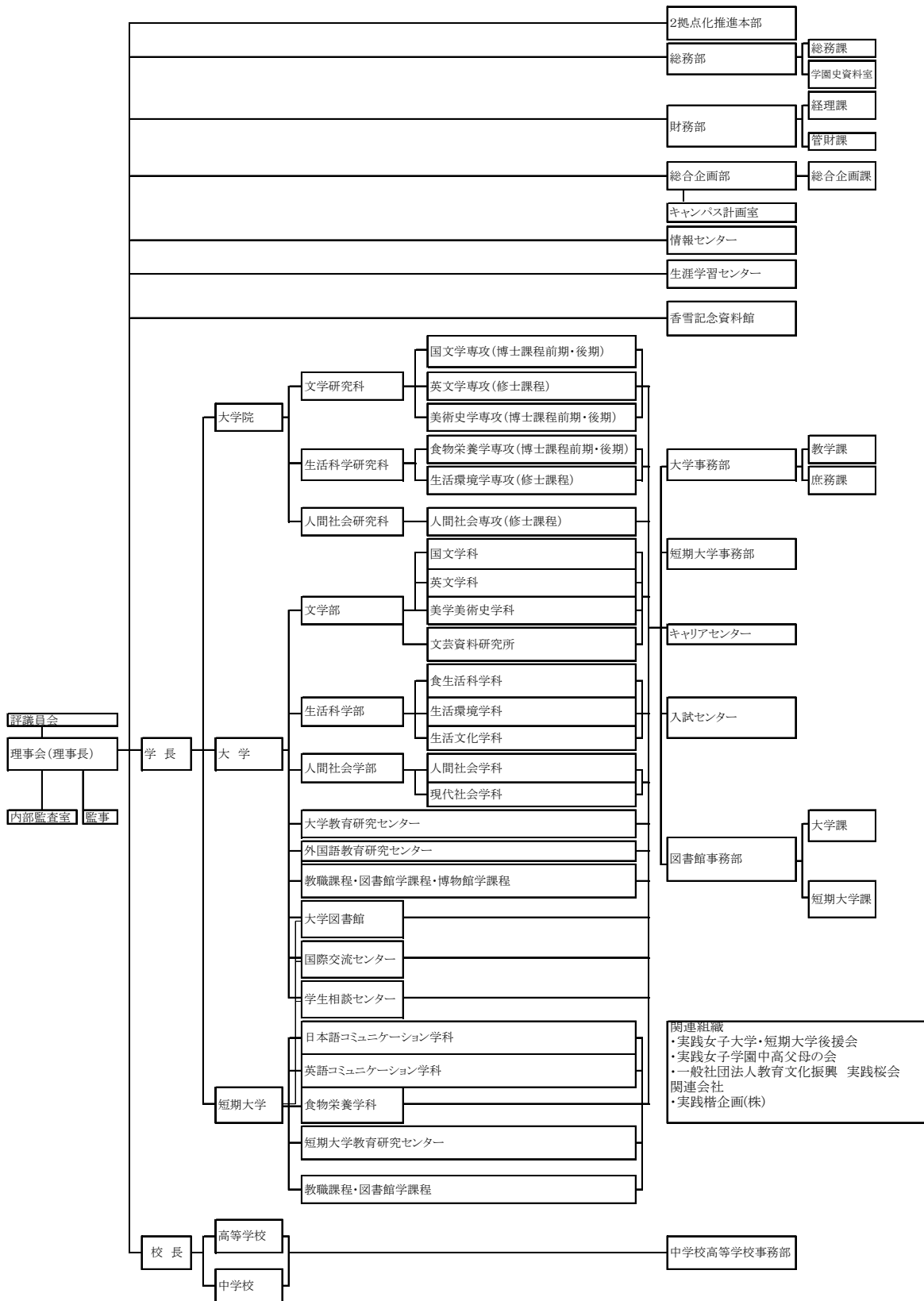
- (1) 大学 〒191-8510 東京都日野市大坂上 4-1-1  
 実践女子大学  
 文学部、生活科学部、人間社会学部  
 実践女子大学大学院  
 文学研究科、生活科学研究科、人間社会研究科
- (2) 短期大学 〒191-0016 東京都日野市神明 1-13-1  
 実践女子短期大学  
 日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科（平成 24 年 9 月 20 日廃止）、食物栄養学科
- (3) 高等学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11  
 実践女子学園高等学校 一般学級、グローバルスタディーズクラス
- (4) 中学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11  
 実践女子学園中学校 一般学級、グローバルスタディーズクラス

### 4 沿革

明治 32 (1899) 年 5 月	帝国婦人協会私立実践女学校並びに女子工芸学校を創設、千代田区麹町に開校
明治 36 (1903) 年 5 月	実践女学校・女子工芸学校を渋谷新校舎に移転
明治 41 (1908) 年 4 月	実践女学校・女子工芸学校を合併して私立実践女学校と改称し、さらに実践女学校中等学部と改称。高等専門学部を開設し、家政科と技芸科を設置。 実践女学校付属幼稚園を開設。
昭和 7 (1932) 年 4 月	実践女学校各部の名称を実践女子専門学校・実践高等女学校、実践実科高等女学校と改称
昭和 9 (1934) 年 1 月	実践実科高等女学校の組織を改め実践第二高等女学校と改称
昭和 22 (1947) 年 4 月	新教育制度により、実践女子学園中学部を新設
昭和 23 (1948) 年 3 月	新教育制度により、実践女子学園高等学校を新設
昭和 24 (1949) 年 2 月	実践女子大学（4 年制）文家政学部設置
昭和 25 (1950) 年 4 月	実践女子学園短期大学家政科設置
昭和 27 (1952) 年 2 月	実践女子学園短期大学国文科、英文科増設
昭和 40 (1965) 年 1 月 4 月	実践女子大学文家政学部を廃止し、文学部、家政学部を設置 東京都日野市に大学教養課程の授業を移転
昭和 41 (1966) 年 4 月	実践女子大学大学院（修士課程）文学研究科国文学専攻、英文学専攻、家政学研究科食物・栄養学専攻設置
昭和 44 (1969) 年 4 月	実践女子大学大学院（博士課程）文学研究科国文学専攻設置
昭和 51 (1976) 年 4 月	東京都日野市に短期大学を移転
昭和 60 (1985) 年 12 月	実践女子大学文学部美学美術史学科設置
昭和 61 (1986) 年 4 月	東京都日野市に大学を全面移転
昭和 63 (1988) 年 4 月	実践女子短期大学国文科、英文科、家政科を国文学科、英文学科、生活文化学科に名称変更
平成元 (1989) 年 4 月	実践女子大学大学院（修士課程）家政学研究科被服学専攻設置
平成 4 (1992) 年 4 月	実践女子大学大学院（修士課程）文学研究科美術史学専攻設置
平成 7 (1995) 年 4 月	実践女子大学家政学部を生活科学部に、家政学部食物学科及び被服学科をそれぞれ生活科学部食生活科学科及び生活環境学科に名称変更 生活科学部に新たに生活文化学科を設置
平成 11 (1999) 年 4 月 5 月	実践女子大学大学院家政学研究科を生活科学研究科に、家政学研究科被服学専攻を生活科学研究科生活環境学専攻に名称変更 実践女子学園創立百周年記念式典挙

平成 12 (2000) 年 4 月	実践女子短期大学国文学科、英文学科を日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科に名称変更、生活文化学科を廃止し、生活福祉学科及び食物栄養学科を設置
平成 16 (2004) 年 4 月 5 月	実践女子大学人間社会学部人間社会学科設置 学祖下田歌子生誕 150 年記念式典
平成 17 (2005) 年 4 月	実践女子大学大学院生活科学研究科食物栄養学専攻博士後期課程を設置、同食物・栄養学専攻修士課程を食物栄養学専攻博士前期課程に改める 実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程を博士前期課程・後期課程に改める
平成 19 (2007) 年 4 月	実践女子大学生活科学部生活文化学科を生活文化専攻と幼児保育専攻に専攻分離
平成 20 (2008) 年 4 月	実践女子学園中学校にグローバルスタディーズクラス (GSC) を設置
平成 21 (2009) 年 6 月	実践女子学園創立 110 周年記念行事を実施
平成 22 (2010) 年 4 月	実践女子大学大学院人間社会研究科人間社会専攻修士課程設置
平成 23 (2011) 年 4 月	実践女子大学人間社会学部に現代社会学科を設置 実践女子大学大学院文学研究科美術史学専攻博士後期課程を設置、同美術史学専攻修士課程を博士前期課程に改める 実践女子短期大学生活福祉学科の学生募集を停止 実践女子学園高等学校にグローバルスタディーズクラス (GSC) を設置
平成 24 (2012) 年 9 月	実践女子短期大学生活福祉学科廃止

# 5 組織 学園組織図



## 6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数

(平成24年5月1日現在)  
(学校法人基礎調査による)

### [大学]

学部名	学科・専攻名	入学定員	編入学定員 3年次	収容定員	入学者数	編入学 者数 3年次	学生数					
							1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
文学部	国文学科 *1	110	15	490	117	11	117	137	170	166	590	
	英文学科 *1	110	15	490	129	8	129	120	165	166	580	
	美学美術史学科 *1	90	10	400	92	2	92	105	108	99	404	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	14	308	71	5	71	73	75	93	312
		食物科学専攻	75	5	310	75	1	75	92	79	91	337
	生活環境学科	80	10	340	91	4	91	94	111	111	407	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	180	49	4	49	48	57	65	219
		幼児保育専攻	45	5	190	52	0	52	46	51	48	197
人間社会学部	人間社会学科 *2	100	20	720	213	7	213	99	188	173	790	
	現代社会学科 *2	100				—		117				
合計		820	104	3,428	889	42	889	931	1,004	1,012	3,836	

\*1 入学定員 平成22年度まで→平成23年度から：国文（120→110）、英文（120→110）、美学美術史（100→90）

\*2 入学定員 平成22年度まで→平成23年度から：人間社会（140→100）、現代社会（0→100）  
人間社会学部は学部一括募集

### [大学院]

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	入学者数	学生数			
					1年次	2年次	3年次	合計
文学研究科	国文学専攻（博士後期課程）	3	9	0	0	0	3	3
	国文学専攻（博士前期課程）	10	20	4	4	5	—	9
	英文学専攻（修士課程）	6	12	0	0	1	—	1
	美術史学専攻（博士後期課程） *3	2	4	0	0	1	—	1
	美術史学専攻（博士前期課程）	6	12	4	4	8	—	12
生活科学研究科	食物栄養学専攻（博士後期課程）	2	6	0	0	1	2	3
	食物栄養学専攻（博士前期課程）	6	12	2	2	2	—	4
	生活環境学専攻（修士課程）	6	12	5	5	1	—	6
人間社会研究科	人間社会専攻（修士課程）	7	14	0	0	4	—	4
合計		48	101	15	15	23	5	43

\*3 美術史学専攻（博士後期課程）は、平成23年度より設置

## 〔短期大学〕

学科・コース名	入学定員	収容定員	入学者数	学生数		
				1年次	2年次	合計
日本語コミュニケーション学科	80	180	92	92	80	172
英語コミュニケーション学科	100	220	観光ビジネスコース	37	53	90
			国際コミュニケーションコース	30	38	68
生活福祉学科 *4	—	—	—	—	1	1
食物栄養学科	80	160	97	97	84	181
合 計	260	560	256	256	256	512

\*4 生活福祉学科は、平成 23 年度より募集停止

## 〔高等学校・中学校〕

学 校	クラス	募集人員	収容定員	生徒数
中学校	一般学級	240	840	841
	グローバルスタディーズクラス	40		
高等学校	一般学級 *5	240	880	833
	グローバルスタディーズクラス *6	40		
高等学校・中学校計		560	1,720	1,674

\*5 高等学校一般学級募集人員 平成 22 年度→平成 23 年度：320→240

\*6 高等学校グローバルスタディーズクラスは、平成 23 年度より募集開始

学生・生徒数合計	6,065
----------	-------



## 7 役員・評議員

### (1) 役員の概要

(基準日：平成25年3月31日)

定員数 理事 12～15人、監事 2人

区分(担当)	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	井原 徹	常勤	平成20年4月 1日常務理事就任 平成21年4月 1日理事長就任
副理事長 (高等教育改革、教学統括、広報)	湯浅 茂雄	常勤	平成15年4月 1日理事就任(大学文学部長) 平成19年4月 1日理事就任(実践女子大学・実践女子短期大学学長) 平成23年4月 1日副理事長就任
常務理事 (財務、校舎・施設設備等整備、危機管理)	宮原 幹二	常勤	平成20年4月 1日事業理事就任(総務部長) 平成21年4月 1日常務理事就任
常務理事 (総務・人事・労務、総合企画)	安達 勉	常勤	平成21年4月 1日事業理事就任(総合企画室部長) 平成22年9月29日常務理事就任
理事 (中等教育改革、高大連携)	嶋野 恵子	常勤	平成22年4月 1日理事就任(実践女子学園中学校・高等学校校長)
理事 (入試、FD・自己点検評価、国際交流)	難波 雅紀	常勤	平成23年6月10日理事就任(大学文学部長)
理事 (2期整備計画)	大久保 洋子	常勤	平成22年4月 1日理事就任(大学生生活科学部長)
理事 (学生、就職、研究)	飯田 良明	常勤	平成20年4月 1日理事就任(大学人間社会学部長)
理事 (短期大学改革、社会貢献・地域連携)	萩野 敏	常勤	平成23年4月 1日理事就任(短期大学部長)
理事 (SD、福利厚生)	玉置 美佐子	常勤	平成23年4月 1日理事就任(実践女子学園中学校高等学校事務室部長)
理事	池田 章子	非常勤	平成15年4月 4日理事就任(ブルドックソース(株)代表取締役社長)
理事	浦上 淳子	非常勤	平成24年5月25日理事就任((社)教育文化振興実践桜会理事長)
理事	吉益 信治	非常勤	平成8年4月10日理事就任(弁護士)
理事	山本 章正	非常勤	平成20年4月 1日理事就任(日野自動車(株)専務取締役)
常任監事	長島 敏市	常勤	平成24年4月 1日常任監事就任
監事	柿本 静志	非常勤	平成19年4月 1日監事就任

平成24年度決算承認に係る理事会開催日(平成25年5月24日)までの役員異動状況

(平成25年3月31日退任)

副理事長	湯浅 茂雄	常勤	実践女子大学・実践女子短期大学学長
理事	大久保 洋子	常勤	大学生生活科学部長

(平成25年4月1日就任)

副理事長	田島 眞	常勤	実践女子大学・実践女子短期大学学長
常務理事	飯田 良明	常勤	実践女子大学・実践女子短期大学副学長
理事	城島 栄一郎	常勤	大学生生活科学部長
理事	廣井(廣川) 多鶴子	常勤	大学人間社会学部長

## (2) 評議員の概要

(基準日：平成 25 年 3 月 31 日)

定員数 27～34 人

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
山内博之	文学部国文学科主任	海野政司	短期大学事務部長
島高行	文学部英文学科主任	玉置美佐子	中学校高等学校事務部長
児島(近藤)薫	文学部美学美術史学科主任	廣井(廣川)多鶴子	人間社会学部現代社会学科主任
秋田修	生活科学部食生活科学科主任	依田泰	中学校教諭
高田典夫	生活科学部生活環境学科主任	安達勉	常務理事
富田洋三	生活科学部生活文化学科教授	浦上淳子	(一社)教育文化振興実践桜会理事長
数野昌三	人間社会学部人間社会学科主任	大川徳子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
松浦常夫	人間社会学部現代社会学科教授	倉沢蒼生子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
佐藤辰雄	日本語コミュニケーション学科主任	島尾光代	(一社)教育文化振興実践桜会役員
日野一男	英語コミュニケーション学科教授	二村朋世	(一社)教育文化振興実践桜会役員
芦川修貳	食物栄養学科主任	井原徹	理事長
田中勉	高等学校教頭	宮原幹二	常務理事
鈴木真知子	中学校教頭	吉益信治	弁護士
井上一雄	高等学校教諭	池田章子	ブルドックソース㈱代表取締役社長
森洋治	財務部長	岡部公志	大学・短期大学後援会会長
奥島尚樹	大学事務部長	安岡真理子	中高父母の会副会長

平成 24 年度決算承認に係る評議員会開催日（平成 25 年 5 月 24 日）までの評議員異動状況

(平成 25 年 3 月 31 日退任)

山内博之	文学部国文学科主任	廣井(廣川)多鶴子	人間社会学部現代社会学科主任
海野政司	短期大学事務部長		

(平成 25 年 4 月 1 日就任)

横井孝	文学部国文学科主任	谷内篤博	人間社会学部現代社会学科主任
寺沢白雄	総合企画部長	小林修	図書館長
八幡隆文	短期大学事務部長		

(平成 25 年 5 月 23 日退任)

安岡真理子	中高父母の会副会長		
-------	-----------	--	--

(平成 25 年 5 月 24 日就任)

蝶野幸信	中高父母の会会長		
------	----------	--	--

## 8 教職員数

(平成24年5月1日現在) (単位:人)

[大学・短期大学専任教員数及び助手、副手数]

		学 長	教 授	准 教 授	専 任 講 師	助 教	合 計	助 手	副 手	
大 学	学長	1					1			
	文学部	国文学科		9	1	1	1	12	2	
		英文学科		7	1	2	1	11	2	
		美学美術史学科		7	3	1	1	12	3	
		文芸資料研究所		1				1		
	生活科学部	食生活科学科		15	1	2	1	19	17	
		生活環境学科		9	1		1	11	8	
		生活文化学科		8	3	3	1	15	4	
	人間社会学部	人間社会学科		6	4			10	4	
		現代社会学科		6	3	1		10		
	教職・図書館学課程			4	1			5	1	
	外国語教育研究センター			2		1		3	1	
	博物館学課程						1	1		
小計		1	74	18	11	7	111	42	0	
短 期 大 学	学長	(1)					(1)			
	日本語コミュニケーション学科		3	4			7		2	
	英語コミュニケーション学科		5	3			8		2	
	食物栄養学科		5	1			6	6		
	教職・図書館学課程		2	1			3			
	短期大学教育研究センター		1	1			2	1		
	小計	(1)	16	10	0	0	26	7	4	
教員・助手・副手 計		1	90	28	11	7	137	49	4	

(注)学長は大学・短期大学を兼務。

大学、短期大学の助手には、教育研究系契約職員(助手)を含む。

人間社会学部の助手は、人間社会学科、現代社会学科を兼ねる。

[中学校・高等学校教員及び助手数]

	校長	教頭	教諭	実習助手	合計
高等学校	1	1	45	2	49
中学校	(1)	1	39		40
小計	1	2	84	2	89

(注)校長は、高等学校・中学校を兼務。

[職員数]

	事務系	管理系	契約等	合計
職員数	89	1	24	114

以上、教職員数総合計 393人

## 9 関係する会社

(平成 25 年 2 月 28 日現在)

実践楷企画株式会社

- ①所在地 〒191-0002 東京都日野市新町 1-24-7
- ②代表取締役 藤代 洋一
- ③設立年月日 平成 13 年 3 月 1 日 (平成 22 年 10 月 1 日社名変更)
- ④従業員数 76 名
- ⑤主な事業 建物等の清掃・警備・保守、清涼飲料水等の販売、文房具等販売、教材・書籍等の印刷・販売、文化教室・各種講演会・イベント等の運営、一般労働者派遣業、損害保険代理店業務、その他
- ⑥資本金額 2,000 万円
- ⑦出資割合 100%
- ⑧売上高 43,788 万円

## II 平成 24 (2012) 年度事業の概要

実践女子学園及び設置学校が平成 24 (2012) 年度に行った主要な事業、並びに現在進めている事業は以下のとおりです。

### 1 教育活動の推進

本学園が設置する各学校では、多様な教育展開の構想を一つひとつ具体化し実現すべく、平成 24 年度も積極的に取り組みました。

#### [大学・大学院、短期大学]

##### (1) 教育目標及び人材育成の目標の検証

大学、大学院、短期大学は、それぞれの検討組織において、学位授与の方針、教育課程の方針、入学者受入の方針について、検証を進め、出来上がったものから逐次公表をしています。

##### (2) 副学長制の導入

平成 24 (2012) 年 2 月制定の「実践女子大学・実践女子短期大学副学長の選任に関する規程」に基づき、新学長候補者の選考に引き続き、副学長の選任手続を行い、平成 25 年 4 月からの田島眞学長、飯田良明副学長の新体制が決定しました。

##### (3) 共通教育カリキュラムの再編成

大学教育研究センターを中心に、平成 26 (2014) 年度の 2 校地展開に対応する共通教育科目の再編成を行いました。特に、実践スタンダード科目・実践アドバンスト科目については実績・成果について検証を行い、カリキュラムの見直しを実施し、平成 25 (2013) 年度より適用します。

短期大学では、短期大学教育研究センターが、平成 25 (2013) 年度に向けて共通教育科目の見直しを行い、併せて学科専門科目間の科目統合を行いました

##### (4) 学部学科改革

1) 文学部では、カリキュラム改革検討委員会の下、文学部全体のカリキュラムの検討を行い、平成 25 (2013) 年度から、副専攻コースの導入、他学科開放専門科目の拡充等を柱とする新カリキュラムの導入を決定しました。さらに、学位授与の方針の検討も行い、三つの方針に基づいて教育の質の向上を目指します。

2) 生活科学部では、平成 26 (2014) 年度以降の魅力ある日野キャンパス展開を目標に、以下の改革を行いました。

①平成 25 (2013) 年 4 月から食生活科学科に三つ目の専攻・健康栄養専攻を設置するに当たり、厚生労働省から栄養士養成施設の指定を平成 25 (2013) 年 2 月 19 日付で受けました。

②平成 26 (2014) 年 4 月の現代生活学科新設に向け、文部科学省に各種手続を行いました。

3) 人間社会学部では、平成 26 (2014) 年度の 2 校地展開に向け、文学部との連携による相互履修を検討しています。

4) 短期大学では、食物栄養学科の平成 25 (2013) 年度からの学生募集を停止する届出を文部科学省に対して行い、また、生活福祉学科について平成 23 (2011) 年 3 月 31 日在籍の学生が平成 24 (2012) 年 9 月 19 日までに卒業等により全員なくなったため、平成 24 (2012) 年 9 月 20 日を以て廃止しました。

日本語コミュニケーション学科及び英語コミュニケーション学科においては、学修成果を明確に示すための教育目標・目的を点検し、外部に公表を行いました。

(5) 大学院改革

平成 25 年度からの T A (ティーチング・アシスタント) 制度導入を目指して、研究科専門委員会で検討を進めてきました。また、大学院への進学者増加の方策として、奨学金制度の拡充と学費の減額の両面による支援策を検討しています。

(6) 特別事業計画の推進

大学と短期大学では、学部・学科・課程の教育改善に資するため、大学では 6 件、短期大学では 5 件の特別事業計画予算を 1,609 万円計上し、内 1,030 万円を以て事業を行いました。

(7) 自己点検・自己評価の推進

- 1) 大学は、平成 25 (2013) 年度に大学基準協会の評価を受けるため、大学自己点検・評価委員会及び自己点検・評価運営委員会が中心となって平成 24 (2012) 年 6 月から全学的な自己点検・評価活動による「自己点検・評価報告書」の作成に着手し、12 月に「自己点検・評価報告書 (草案)」をまとめました。大学基準協会から草案に関する要補足説明の指摘等を 2 月に受けて修正等を行い、3 月末に「自己点検・評価報告書」「評定一覧表」「大学基礎データ」及び根拠資料一式を大学基準協会に提出しました。
- 2) 短期大学においても、平成 25 (2013) 年度に短期大学基準協会の第三者評価を受けるための申請を平成 24 (2012) 年 6 月に行い、10 月に決定通知を受領しました。平成 25 (2013) 年 6 月の自己点検・評価報告書提出に向け、短期大学自己点検・評価運営委員会が中心となって、全学を挙げて自己点検・評価に取り組み、報告書作成を行いました。

(8) FD (Faculty Development) 活動の推進

- 1) 大学では、FD 研修会を 6 月 21 日に「GPA 制度の活用と課題」をテーマに開催し、52 名 (教員 45 名、職員 7 名) が参加しました。これは、平成 23 年度から全学的な GPA 制度の導入を行っている本学において、GPA の実質化に向けて研鑽を積むことを目的としたものです。  
また、10 年以上継続実施してきた「学生による授業評価アンケート」は、今年度は、実践スタンダード科目 (実践入門セミナー及び実践キャリアプランニング) に絞って悉皆調査を行いました。他の授業科目においては、教員が授業内アンケートやリアクションペーパーの方法により、学生の意見や要望を汲み取って授業内でフィードバックすることとしました。また、その結果については、「授業改善報告書」にまとめて、次年度に Web 等での公開をする予定です。
- 2) 短期大学では、FD 研修会として「各学科のディプロマポリシー報告」をテーマに行いました。各学科の学位授与の方針について、表現の統一を図りホームページで公表を行いました。

(9) 高大連携の推進

平成 24 (2012) 年 6 月に渋谷の中高キャンパスにおいて、高大連携推進会議を開催し、中高教員と大学・短期大学教員が、今後の高大連携の積極的な推進について意見交換を行い、平成 26 (2014) 年度の 2 校地化を機に更なる連携強化に向けて協議を開始しました。

(10) 教育情報の公表

大学・短期大学では、学園の情報公開に関する規程に基づき、平成 24 (2012) 年度の大学・短期大学教育情報を 7 月末にホームページに掲載しました。

## 〔中学校・高等学校〕

- (1) 実践スタンダード「3+1」の推進と深化  
「キャリア教育」、「感性表現教育」及び「国際交流教育」の三つを本校の教育の柱とし、さらに、生徒自らのライフデザインを実現し得る高い学力の獲得を目指す「学力改革」を加えた実践スタンダード「3+1」を推進しました。
- (2) 一般学級（スタンダード実践クラス：「SJC」）の教育の充実  
中学1年次から少人数編成クラスの下で、きめ細やかな指導を行い、生活・学習習慣の確立を図りました。また、より高い英語力を身に付けたい生徒に対しては、中学1年次からネイティブ教員によるアドバンストイングリッシュクラスの指導を徹底しました。
- (3) 中学校グローバルスタディーズクラス（国際学級：「GSC」）の教育の充実  
中学校では、英語の習熟度別3クラス編成を行い、英語力の向上を図りました。また、国語及び数学の2教科でも習熟度別クラス編成により、学力の定着を目指しました。さらにGSCに特化した外国語教育や異文化体験プログラムも実施しました。
- (4) 高等学校グローバルスタディーズクラス（国際学級：「GSC」）の教育  
高校1年の7月から9月までの3か月間、オーストラリアの現地校で短期留学を実施し国際性を養う教育を行いました。また、生徒の進路意識を高めるキャリア教育として「スペシャリストに学ぶ」の開講や、高校2年生での4教科（国語・数学・理科・社会）の学力向上プログラムを実施しました。
- (5) 中高一貫教育の推進  
中学校の新指導要領の実施に伴う、新しい教育課程を実施しました。また、中学校において学力の定着を図り、高等学校において進学指導に導き、国立大学・私立難関大学への進学実現を目標とした「学力改革」を進めて、中高一貫教育に相応しい生徒の資質の養成と学力向上に取り組みました。
- (6) 教員研修の充実  
教育全般に係る指導力向上のために、初年次研修、10年次研修をはじめとした教員研修を実施しました。また、生徒による授業評価を実施し、それを踏まえた授業力の向上を推進しました。
- (7) 安全安心教育の推進  
生徒の命を尊重し、心と身体の健康のための取り組みを行い、研修会を継続して円滑な対応ができるようにしました。東日本大震災時の対応経験を活かし、防災意識を高め、より安全な避難方法や下校訓練などを実施しました。
- (8) 高大連携の実施と拡充  
実践女子大学・同短期大学との連携による講座の開設を実施するとともに、平成26（2014）年度の大学・短期大学の渋谷キャンパス展開後の連携強化に取り組みました。  
また、これまで実施している國學院大学との連携における生徒の受講奨励と単位の認定に努めました。また、大学生による中学生に対するTA制度の導入を検討しています。
- (9) 学校評価の推進  
これまで積み重ねてきた、自己点検・自己評価を基にして、さらに学校関係者評価に向けた体制づくりを進めました。

## 2 研究活動の推進

### (1) 学内研究助成及び個人研究費による研究の推進

学内研究助成では、大学教育推進プログラムとして3件、研究設備として1件を採択し、本学教員の学術研究の推進支援を行いました。

### (2) 共同研究・受託研究の推進

大学では寄付研究を3件受け入れ、外部からの研究資金を獲得しました。共同研究も1件受け入れ、合計4件の研究を行いました。

短期大学では、昨年度から引き続き1件の研究受託契約を締結して推進しました。

### (3) プロジェクト研究の推進

平成23(2011)年度に発足した「実践女子学園プロジェクト研究所」は、発足時からの7研究所(内1研究所は年度途中で廃止。)に、平成24(2012)年度から1研究所が加わって研究活動を行いました。

- 1) 桜楓散歩会
- 2) 実践女子学園中・高・大連携教育における学習支援の開発研究プロジェクト
- 3) 次世代型情報基盤教育への新展開
- 4) 下田歌子研究プロジェクト
- 5) 実践女子大学食の風景プロジェクト
- 6) 「恵那と日野を結ぶ食とこども」プロジェクト
- 7) 「ソーシャル・リクルーティング×次世代育成」プロジェクト

なお、平成25(2013)年度のプロジェクト研究所設置の募集には2件の応募があり、内1件を採択しました。

### (4) 国外研修及び国内研修の推進

大学では、文学部から国外1名・国内1名、短期大学では、国外1名・国内1名の4名をそれぞれ研修に派遣しました。

### (5) 科学研究費補助金等外部資金による研究の推進

科学研究費補助金は、大学の研究代表者16件及び研究分担者を含み、合計で42件が採択されました。

## 3 教育研究活動支援の推進

### 〔大学・短期大学〕

#### (1) 教育研究改革の支援と推進

文部科学省の補助金により大学教育・学生支援推進事業として推進してきた大学の「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」(平成21年度～23年度)は、卒業生参加型ロールモデル授業に対して日本学生支援機構から高い評価を得ました。平成24(2012)年度も、卒業生の協力を得て事業を継続し、学生は高い満足度を示しました。また、卒業生28名をロールモデルとしたキャリア教育の補助教材、冊子「燦」を2年生以上のキャリア教育の授業で配布、活用しました。

#### (2) 大学・短期大学図書館による教育研究支援推進

##### 1) 2校地化に向けた図書館運用計画

3年計画の2年目として、図書館システム導入(1994年7月)以前に購入した研究室資料データの遡及入力を進め、蔵書データの整備を行いました。

##### 2) 図書館利用活性化の推進

###### ① 学生選書ツアーの実施



第3回学生選書ツアーを8月に実施しました。大学生7名及び短期大学生5名が書店で選んだ268冊の図書を、推薦コメント（ポップ）とともに図書館内に展示し、「選書紹介リーフレット」を発行しました。

②学生スタッフの活用

初年次教育「実践入門セミナー」の図書館案内スタッフ（図書館案内サポーター）を23名採用しました。

3) 図書館文化講演会の開催

平成24（2012）年11月に作家志茂田景樹氏による講演「このひとときから得られる感動と元気力～童話、読み聞かせの必要性～」を開催し102名が来場しました。その後一般の来場者を対象に図書館ツアーを行いました。

4) 日野市立図書館との連携事業

①初心者向け図書館ホームページ活用講座

平成24（2012）年9月に、日野市立図書館との共催により、短期大学パソコン演習室で高齢者向けインターネット検索講座を実施しました。

②日野市立図書館ヤングスタッフの選書展示

平成24年11月に実践女子大学図書館ブラウジングコーナーにおいて、日野市立図書館のヤングスタッフが選書した図書を展示しました。

〔中学校・高等学校〕

(1) 中高図書館メディアセンターの利用拡大

キャリア学習室に設置されている情報機器を、教科学習や総合学習、クエストエデュケーションの準備などに積極的に利用しました。

(2) 図書委員会の活動

中高図書委員会は、年2回「らいぶらりー」を発行しました。中高図書館受入書籍の選定にも携わって134冊を選定し、新刊図書の紹介などの広報活動を行いました。また、ときわ祭では朗読会を行いました。

4 学生・生徒支援の推進

大学・短期大学学生及び中学校高等学校生徒のキャリア教育及び生活支援のために、以下の課題に重点的に取り組みました。

(1) 大学・短期大学のキャリア教育支援の充実

キャリアセンターでは、正課科目のキャリア教育と連携する形で、学生の就業意識向上並びに社会に対する視野拡大を図る取り組みを以下のように行いました。

1) 学外で実施する「一日企業見学会」

学生の夏季休暇を利用し、企業13社の協力の下、「一日企業見学会」を催しました。学生339名が、オフィス見学、講義、OG・女性社員との討論等、多彩なプログラムを経験しました。平成25年度は、日野市役所の協力により地元の中小企業への見学会も加わります。

2) 学内で実施する「仕事体験講座」

平成23（2011）年度に実施した同講座を拡大し、協力企業10社により、業界と職種を組み合わせ、同じ職種でも業界によって働き方が異なることを参加学生342名が如実に体験しました。

3) 公務員試験対策講座の実施

平成24（2012）年5月から平成25（2013）年3月までの期間に計129コマの「公務員試験対策講座」を開講し、145名の受講者でスタートしましたが、約50名が最後まで受講しました。実際の公務員試験の結果が出るのは次年度以降ですが、平成25（2013）年度も開講するこの講座は、学内のパソコンから動画受講することが可能ですので、多く

の学生に活用してもらいたいと願っています。

(2) 中学校高等学校のキャリア教育の充実

中高6か年間のキャリア教育で進路観、職業観の育成を図り、進路意識・学習意欲の向上に努めました。クエストエデュケーションプログラムや、25年後の自分のライフデザインを描きその実現に向けて取り組むプログラム「25年後の世界と私」を実施しました。また、「スペシャリストに学ぶ」等のキャリアガイダンスや「インターンシップ」を通して課題解決能力を中心とした21世紀の人間力養成を行いました。

(3) 東日本大震災の被災学生支援

「東日本大震災被災学生支援等プロジェクト」として、授業料減免特別措置、修学支援奨学金の給付等の経済的支援、被災学生アルバイト（JOB MATE）雇用、学生相談センターへの専門カウンセラーの配置等を行いました。

(4) ボランティア活動支援の推進

東日本大震災で被災した岩手県宮古市への大学生によるボランティア活動が平成24（2012）年6月から12月にかけて6回行われ、学園は震災時に寄せられた寄付金をもとに旅費等の支援を行いました。

中学校高等学校は、本年度も日本青少年赤十字活動に加盟し、ボランティア活動を積極的に推進しました。図書委員会による青山子どもの城での幼児・児童向け「読み聞かせ活動」をはじめとして、日々の委員会活動・部活動を通じて積極的に社会に貢献する取り組みを支援しました。また、高校生ボランティアプロジェクトに参加し、宮城県石巻市においてボランティアワークを体験しました。

(5) 障がい学生支援の推進

大学・短期大学では、全国的に発達障がいのある学生が増えている状況に鑑み、共通認識を持って支援するためのDVD上映会を開催しました。また、教職員の発達障がいに関する理解を深めるため、学長主催で「発達障がいに関する講演会」を開催しました。

(6) 学生による活動

大学・短期大学の学生による課外活動のうちから、各地域の活動に参加したものをピックアップします。

- 1) YOSAKOI ソーラン部 WING が、第21回 YOSAKOI ソーラン祭り（北海道札幌市）にて、奨励賞を受賞しました。
- 2) ATLAS チアリーディング部が、長年にわたる地域住民への交通安全意識高揚の協力に係り、日野警察署長から感謝状を授与されました。
- 3) ビッグバンドジャズ部「Musica Blossom Orquesta」が東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを開催しました。

(7) 英語力（TOEIC）向上プロジェクトの推進

大学では、英語力向上プロジェクトを推進して学生の TOEIC スコアアップを支援しました。これは明治大学の協力で SKYPE（スカイプ）オンライン英会話プログラム（カランメソッド）を試行するもので、23名の学生が参加し30時間の夏期集中レッスンの結果、平均約30点、最大185点のスコアアップができました。

## 5 入試・広報の推進

(1) 中長期を見据えた広報戦略

学園創立120周年記念に向け、中長期の広報戦略策定に着手しました。

(2) 2校地化、大学・短期大学の教育展開の計画的広報

平成26年度の2校地化及び平成31年度の創立120周年の周知のために、シンボルマークの作成を大学美学美術史学科下山肇准教授に依頼し、出来上がった2種類のシンボルマークを3月から様々な広報媒体に活用しています。

(3) 大学院入試広報の充実

新聞広告、内部進学者向け専攻別学内相談会、卒業生向け大学院案内DMの発送等の手段により、大学院入試広報を強化しました。

(4) 漫画『きらり うたこ』、しおり「源氏物語シリーズ」によるブランド力形成

創業者下田歌子の生涯を描いた漫画『きらり うたこ』（平成23年3月刊）の増刷、並びに書店レジ置きしおり「源氏物語シリーズ」により、学園の存在をアピールしました。

(5) るるぶ特別編集「JISSENo1.3」の発行

大学・短期大学の学生が編集に参画している『るるぶ特別編集「JISSENo1.3」』は、平成26（2014）年度の2校地化を踏まえ特別編として渋谷の街の紹介を加えて、平成24（2012）年12月に刊行されました。

(6) 「実践フェスタ」の開催

大学・短期大学の地方入試を実施する地域を中心に山形、仙台、水戸、静岡及び秋田の5都市で「実践フェスタ（JISSE フェスタ）」を8月に実施し、卒業生を含む158名の参加者を得ました。受験生とその保護者には本学の就職支援の充実ぶりを入試広報を、在学生の保護者には各地方のUターン就職についての講演を行いました。フェスタ開催の告知等の広報強化により、秋田、山形、宮城、茨城及び静岡の各県からの志願者が660名を超えました。

(7) 中学校高等学校の広報活動

平成25（2013）年度一般入試については、基本的には平成24（2012）年度入試の方法を踏襲しましたが、帰国生入試については、日程及び試験科目の変更を行いました。学校説明会は、本校志願者の定着に繋がるように内容の充実を図り、ホームページの大幅なりニューアルにより適時の更新、動画や生徒の声の掲載を可能としました。在校生や保護者専用のページも作り、保護者の理解を深めるように努めました。

## 6 創立120周年記念整備事業の推進

平成31（2019）年の学園創立120周年に向けて「創立120周年記念整備事業計画の大要」に基づき、平成24（2012）年度も渋谷キャンパス整備を中心に事業を推進しました。2校地化を円滑に進めるために、学園副理事長を本部長とする2拠点化推進本部を学園に設置しました。

平成24（2012）年3月に着工した大学・短期大学棟（仮称）の建設は、平成26（2014）年1月末の竣工を目指して順調に工事が進んでおり、現在、建設家具等の調達手続等を進めています。

また、平成25（2013）年2月の理事会において、日野キャンパス整備計画に係る事業費総額と資金計画を決定し、施設担当常務理事を委員長とする2期整備計画委員会も発足しました。この2期整備計画に先立ち、平成25（2013）年4月開設の生活科学部食生活科学科健康栄養専攻に対応する仮研究室棟の建設が行われました。

### ＜ 創立 120 周年記念整備事業計画の概要 ＞

- 整備事業の基本的考え方  
創立 120 周年を平成 31（2019）年 5 月に迎えるにあたり、学園としての社会的責任を果たすため、教育・研究体制を整えるとともに、「長期的展望に立脚した渋谷校地と日野大坂上校地の 2 拠点化」を大きな柱として、整備事業に取り組む。
- 整備事業の計画項目
  - 【1 期整備計画 渋谷キャンパス整備計画】
    - ① 中学校高等学校新体育館の建設[第 1 期計画事業]（平成 22 年度～23 年度）
    - ② 大学・短期大学棟の建設[第 1 期計画事業]（平成 23 年度～25 年度）
  - 【2 期整備計画 日野キャンパス整備計画（仮称）】
    - ③ 日野キャンパスの整備（平成 25 年度～28 年度）
  - 【創立 120 周年 1 期整備計画募金】
    - ④ 創立 120 周年 1 期整備計画募金 4 億円の寄付金募集（平成 22 年度～26 年度）
- 1 期建設関係事業に係わる事業費総額と資金計画
  - ① 事業費総額 87 億円
  - ② 資金計画

施設設備維持引当特定資産	26 億円
第 2 号基本金引当資産	29 億円
長期借入金	28 億円
寄付金	4 億円
<hr/>	
（合計）	87 億円
- 2 期整備計画に関わる事業費総額と資金計画（平成 25 年 2 月 15 日理事会決定）
  - ① 1 次事業費総額 30 億円
  - ② 資金計画

施設設備維持引当特定資産	20 億円
寄付金	1 億円
支払資金	9 億円
<hr/>	
（合計）	30 億円

## 7 国際交流の推進

- (1) 大学では、中国・伝媒大学、韓国・檀国大学校及びオランダ・オランダ国立南大学から留学生合計 11 名を受入れ、本学から中国・伝媒大学、オランダ・オランダ国立南大学及びカナダ・フレージャーバレー大学に留学生 6 名を派遣しました。
- (2) 短期大学では、英語コミュニケーション学科が専門科目として単位を認定する「オーストラリア・ストツカレッジ春期語学研修」に 1 年生 14 名を派遣しました。また、ストツカレッジへの半年間の短期留学については、英語コミュニケーション学科から 2 名が参加し、所定の課程を終えて帰国しました。
- (3) 中学校高等学校では、教育交流協定を結んでいる、タイ及びドイツの高校との短期交換留学、ニュージーランドへの短期派遣留学を実施しました。さらに、ハワイ、ニュージーランド及びオーストラリアへの語学研修を実施し、84 名の生徒が参加しました。

平成 23（2011）年 11 月開催の第 5 回全日本高校模擬国連大会（グローバル・クラスルーム日本委員会主催）において優秀賞を受賞した GSC の高校 2 年生 2 名が、平成 24（2012）年 5 月にニューヨークで行われた国際大会へ出場しました。

また、平成 24（2012）年 11 月の第 6 回全日本高校模擬国連大会では、一般学級（SJC）の高等学校 2 年生 2 名が参加して 2 年連続の優秀賞受賞の栄冠に輝き、平成 25（2013）

年5月にニューヨークで開催される国際大会に日本代表団の一員として派遣されることになりました。

## 8 社会貢献・地域連携等の推進

### (1) 大学・短期大学公開市民講座の実施

各学部・学科の特色を生かした公開講座を実施して、社会貢献並びに地域の生涯学習の推進に寄与しました。

公開市民講座 テーマ	月日	会 場
天然物と健康	6月23日(土)	日野・大坂上キャンパス
琉球芸能江戸上りー沖縄古典 芸能の歴史を探るー	6月30日(土)	日野・大坂上キャンパス
食と健康	9月15日(土)	日野・大坂上キャンパス
子どもと健康	10月20日(土)	日野・大坂上キャンパス
生活環境と健康	11月24日(土)	日野・大坂上キャンパス

### (2) 生涯学習センターによる生涯学習の推進

学園教員による特別講座は、8年間続く生活科学部田島眞教授の食品に関する講座をはじめ前期後期併せて13講座を開講し、320名余の受講生を得ました。

一般講座は、7ジャンル、145講座を開設・募集し、内130講座を開講して受講者が2,026名ありました。

また、無料特別講座として、本学をより多くの方に知っていただくため湯浅茂雄学長による講座「ゆりかごを動かす手が世界を動かすー下田歌子の目指したものー」を開講しました。(受講者30名)

### (3) 香雪記念資料館による企画

1) 展覧会を4月～1月にかけて7回開催し、入館者数は2,271名でした。

①「下田歌子展ー関東大震災と太平洋戦争時期を中心としてー」(4/4～4/24)

②「源氏物語へのあこがれ」(5/21～6/22)

③「巡る十四景ーあなたも旅人ー」(7/9～7/27・7/29・8/12)

④「中国美術入門ー漢から元までー」(7/9～7/27・7/29・8/12)

⑤「鋏形蕙斎の世界ー絵本と版木ー」(9/29～10/13)

⑥「知られざる女性画家たちー江戸から大正期のもう一つのまなざしー」(10/29～12/7)

⑦「複製による中国絵画展ー元～清代の名品と歴代の仕女図からー」(1/8～1/31)

2) 下田歌子関係資料の調査を行い、『鑑賞シリーズ1 麗しの小箱 ボンボニエール』(冊子)を調査結果として刊行しました。

### (4) 日野市及び各行政機関との連携

#### 1) 防災に関する連携

大学での平成24年度避難訓練に際して、日野消防署の協力により通報訓練、消火訓練、起震車体験を実施することができました。

#### 2) 日野市「企業の魅力PRレポート」

日野市産業振興課からの依頼に応え、生活科学部教員3名が「企業の魅力PRレポート」作成に協力し、日野市内中小企業並びに本学の研究動向の情報発信を行いました。

#### 3) 日野駅周辺活性化プロジェクトへの参画

文学部美学美術史学科の学生が、日野市からの依頼に応じて、学生の視点による

日野駅周辺の活性化を考える取り組みに参画し、日野市関係者に様々なプランをプレゼンテーションしました。

4) 産学公連携プロジェクト「未来の私+ $\alpha$  (家族) を考える」への参画

短期大学食物栄養学科の学生が、産学公連携プロジェクト「未来の私+ $\alpha$  (家族) を考える」に参画し、平成 25 (2013) 年 3 月にワークショップを行いました。日野市長や本学学長、企業社長とともに、若年助成の健康とからだづくり、豊かな社会の構築に役立つ方策について幅広い議論を行いました。

(5) プロジェクト研究所に係る地域連携

プロジェクト研究所の一つである健康栄養科学研究所「桜楓散歩会」は、週 3 日、地域の高齢者の方々とノルディックウォーキングや簡単な体操を行い、高齢者の体力づくりやコミュニティ形成の一端を担う活動を行っています。

また、同じく下田歌子研究所は、岐阜県恵那市岩村町で「第 2 回歌子さんの集い」を行い、創業者下田歌子を知る方々に研究成果の発表を行うなど交流を深めました。

(6) 第 12 回「かたち・ふれあい」展の開催

短期大学では、10 月から 11 月にかけて、恒例の「かたち・ふれあい」展第 12 回を開催しました。多摩地域を中心とする造形作家の作品約 50 点を展示して、地域の方々に公開しました。

## 9 卒業生向け活動の推進

広報誌「桜むすび」第 2 号を平成 24 (2012) 年 4 月に発行し、学園と卒業生との絆を深めました。

また、ホームカミングデー (第 14 回) を、渋谷キャンパスでは 10 月 28 日に、日野・大坂上キャンパスでは 11 月 10 日にそれぞれ開催しました。

中学校高等学校では、平成 25 (2013) 年 1 月 14 日に実践女子学園と実践桜会共催により、卒業生を招待し、「祝成人の会」を開催しました。

## 10 建学の精神の高揚—創業者下田歌子顕彰事業

創業者下田歌子の建学の精神を高揚すべく、創業者を顕彰する事業や諸行事を行いました。

(1) 岐阜県恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」の推進

下田歌子の業績を顕彰して、本学園、岐阜県恵那市及び恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」実行委員会主催、PHP 総合研究所共催、東京都日野市後援による公募賞「第 10 回下田歌子賞」は、エッセイと短歌を募集しました。エッセイの部 854 編 (昨年比 76 編増)、短歌の部 1,431 首 (昨年比 245 首増) の応募があり、平成 25 年 1 月に恵那市岩村公民館において授賞式・記念イベントが行われました。

(2) 恵那市との連携事業の推進

本学園と恵那市との包括連携協定に基づき、講演や「歌子さんの集い」を行いました。

さらに平成 25 (2013) 年度に開設される恵那市市民大学「恵那三学塾」に学園の教職員を講師として派遣します。

(3) 恵那市岩村町での学祖法要の実施

理事長以下 22 名が 6 月に恵那市を訪れ、隆崇院において学祖法要を営んで学園の概況を報告し、続いて乗政寺墓地にて下田家墓参を行いました。また、下田歌子の実家・平尾家の墓所について、学園が 11 月に改修工事を行って今後も維持・管理することとし、工事完了を以て 12 月 9 日に同墓所において開眼法要を行いました。

(4) 恵那市岩村町における学祖教育と校祖学習の推進

恵那市岩村町を中心として学祖教育を行う「大学・短期大学夏季セミナー」を、本年度も9月に行い32名（学生25名、教職員7名）が参加しました。学生向けの講義を一般の方にも開放したところ、市民24名が聴講されました。

中学校では、入学時からキャリア教育の一環として、女子教育の先駆者としての校祖学習を行い、2年生は恵那市岩村町において移動教室を行いました。

#### (5) 漫画『きらり うたこ』による学祖教育と校祖学習

漫画『きらり うたこ』（平成23年3月刊）をサブ・テキストとして、大学・短期大学全学生必修の実践スタンダード科目「実践入門セミナー」において学祖教育を行い、中学校でも校祖学習を行いました。

### 1.1 管理運営

学園及び設置学校の管理運営体制を整備し、公共性・透明性の確保に努めるとともに効率的な運営を目指し、重点事項として財務計画を中心に、経営方針及び中期計画、資金計画の適切性、実施状況について、以下の点について、日本私立学校振興共済・事業団経営支援室の研修会を開催しました。

- 1) SWOT分析（弱み、強み等含む内外の環境分析）の必要性
- 2) 学生生徒数、教職員数の定員管理
- 3) 帰属収支差額比率の設定・管理
- 4) 短期大学の改善計画策定（定員未充足、帰属収支差額の連続赤字回復に向けて）
- 5) 専任教員の授業時間数のあり方及び非常勤教員数
- 6) 教職員一人当たりの人件費単価

また、内部統制の有効性、コンプライアンス体制の強化を図るため、「実践女子学園中学校・高等学校教育職員就業規則」及び関連諸規程並びにその他諸規程の整備を行いました。

#### (1) 職員人事制度改革

平成26（2014）年度の2校地化を推進するため、「2拠点化推進本部」を平成24（2012）年4月に設置するとともに、教育・研究支援及び学生・生徒サービスを担う事務体制を構築すべく、大学事務部に「庶務課」と「教学課」を置き、業務を明確にし管理運営体制を整備しました。

#### (2) 職員の資質向上のための研修制度の推進

平成23（2011）年度に引き続き、目標管理の共有化による「仕事評価」の実施、職員の資質向上を目指して、国内における事務研修に職員の参加を進めるとともに、中間管理職をメインにマネジメントセミナー及びSD研修への派遣を推進しました。

#### (3) 監査体制の強化

学園における内部統制の有効性を高め、リスク管理、コンプライアンス体制の強化を図るため、公認会計士監査、監事監査及び内部監査室の各種機能強化を進めるとともに、三者間の有機的な連携強化に取り組みました。

平成24（2012）年度の主な監査内容は以下のとおりです。

- 1) 理事会が策定する中期事業計画、年度予算等の経営方針との整合性
- 2) 諸規程の整備状況
- 3) 預貯金、債券等を含む財産の管理状況
- 4) 平成24（2012）年度監査法人の気付き事項
- 5) 平成23（2011）年度監事改善要望事項及び監査法人の気付き事項の改善状況
- 6) 自己点検・評価の取り組み状況
- 7) 公的研究資金

(4) 学園史資料室の充実

学園の教育・研究活動の成果や活動の軌跡となる史料及び資料を一元的に収集・保管・管理し、社会に提供する機能の充実に努めました。

(5) 2校地化に向けた事務体制・組織及び意思決定のあり方の検討

2校地化の下の事務体制及び組織について8月の理事会集中討議で検討・討議しました。また、教学部門における意思決定のあり方については、意思決定の在り方検討委員会において検討を進め、合同教授会に答申が出されました。

(6) 情報インフラの整備

設置各学校で展開する教育研究を支援するために、ICT(情報通信技術)を有効活用する環境整備を以下のとおり行いました。

[学園全体]

1) 出退勤管理システム、業績管理及び人事管理システムの導入 (2,400万円)

学園教職員の出退勤状況を管理する出退勤管理システムを平成24年4月から稼働しました。また、教員の業績管理及び人事管理システムも納品・検収を終了し、本格的な運用を平成25年度から開始します。

2) 財務システムの更新 (2,100万円)

円滑な財務関連業務の遂行を目的として、発生源入力を前提とするシステムの更新を行いました。また、学納金収納の連携を図るため、教務・入試システムの改修を行いました。

3) 学内外ネットワーク接続部分(機器と構成)の見直し更新

ネットワーク接続機器を高性能のものに更新し、学内外のネットワーク接続を安定させました。

4) ドメイン化及びファイルサーバの統合

大学・短期大学の2校地化に対応し、業務の効率化を図るため、2校地のどちらでも同様の業務ができるネットワーク環境の構築を開始しました。具体的には、ユーザーアカウントをドメイン化すると同時に、各部署で導入している業務用ファイルサーバの統合を行っています。平成24(2012)年度は情報センター内の環境整備を行い、25(2013)年度中に各事務部の環境移行を行います。

[大学・短期大学]

1) 情報ラウンジソフトウェアの更新 (425万円)

情報ラウンジ及び演習室のCADソフトウェアVectorworksを、最新バージョンに更新しました。

2) 大学・短期大学図書館システム機器の更新 (2800万円)

サービス改善を目的として、大学・短期大学図書館システム機器の更新を図りました。

3) SNSシステム機器の追加

大学ではSNSシステム「実践アラムナイ」で配信する動画を学外でも視聴可能にするため、サーバ機器を追加しました。

(7) 学園関係者の表彰について

1) 人間社会学部人間社会学科石川恵子准教授が、著書「地方自治体の業績監査」(株式会社中央経済社)で、第40回日本公認会計士協会学術賞を受賞しました。

2) 生活科学部食生活科学科田島眞教授が、厚生労働大臣より栄養士養成成功労者として表彰されました。



## 1 2 施設設備の改修・更新等

学園の施設設備を維持し有効活用するために、経年劣化等に対処する必要な改修・更新及び調査等を行いました。また、創立 120 周年整備事業の施設設備計画で検討中である諸方策を具体的に推進しました。

本年度実施した主な改修・更新等

〔大学〕日野・大坂上キャンパス

- (1) 第 7 館 A 棟の改修及び第 7 館 B 棟の建設
- (2) 本館 3 階、4 階トイレ改修
- (3) 体育館床の修繕
- (4) 本館給排水配管の劣化診断
- (5) 台風被害による駐輪場の修繕
- (6) 香雪記念館大教室及びエントランスの水銀灯の LED 化工事（後援会助成金）

〔短期大学〕日野・神明キャンパス

- (1) 第 3 館漏水の修繕

〔中学校・高等学校〕渋谷キャンパス

- (1) 第 1 館屋上防水の修繕
- (2) 第 1 館 1 階、4 階及び第 3 館 3 階、4 階のトイレ改修
- (3) 台風被害による倒木の修繕
- (4) 第 1 館ドアの更新

〔学園〕

- (1) 岐阜県恵那市岩村町乗政寺墓地内の平尾家墓所（創立者下田歌子の実家）の改修工事及び墓地参道の砂利敷設等整備

## 1 3 財務計画

### (1) 財政状況の改善

平成 24（2012）年度の帰属収支差額は、前年度比 3 億 3,000 万円改善し 6 億 6,800 万円となりました。しかし、これは資産処分差額（消費支出項目）が前年度 2 億 5,800 万円あったものが当年度には 4,400 万円に減少したこと、当年度に現物寄付による臨時収入 1 億 3,000 万円があったことによるもので、実質的な財政状況の改善には至りませんでした。引き続き収入に見合った支出構造への転換を図るべく、人件費の見直し等に注力いたします。

### (2) 各種の募金計画

実践女子学園奨学基金拡充募金に継続して取り組み、さらに教職員奨学資金についても学園教職員の協力を仰ぎ、継続的な募金活動を行いました。

学園創立 120 周年記念 1 期整備計画募金（平成 23 年 4 月～27 年 3 月）は、2 年目となり、改めて同窓生をはじめとする学園関係者並びに企業・法人への周知・寄付依頼を実施しました。平成 24（2012）年度末時点での募金申込総額は 2 億 3,300 万円、寄附金額 1 億 8,450 万円となりました。

### (3) 第 2 号基本金引当特定資産の積立・取崩

創立 120 周年記念 1 期整備計画の事業費に充てるため、引き続き 2 号基本金引当特定資産（学部学科改革整備資金引当特定資産）に 2 億 5,000 万円を積み立てました（積立累計額 26 億 5,000 万円）。

一方、同整備事業の進捗に伴い、大学・短期大学棟（渋谷）建設代金の中間払の一部に充当するため、12 億円を取り崩しました。この結果、2 号基本金引当特定資産の期末残高は 10 億 5,000 万円となっています。

なお、平成 24（2012）年度の大学・短期大学棟建設代金の支払額は、約 29 億円でしたが、

上記以外に施設設備維持引当特定資産の取崩約 5 億 5,000 万円、日本私立学校振興・共済事業団からの借入 10 億円、120 周年記念 1 期整備計画募金約 4,500 万円等を以て充当しました。

#### (4) 第 3 号基本金引当資産の積立

学業及び正課外活動にて顕著な成果を収めた学生・生徒を顕彰する学長賞・校長賞奨学金（記念品）の財政基盤を拡充するため、実践女子学園奨学基金を 5 年間で 4 億円から 5 億円に増額することとし、平成 24 (2012) 年度はその初年度として 2,000 万円を積み立てました。

また、理想科学工業株式会社名誉会長の遺族から上場会社株式の寄付をいただきました。学園との縁が深い寄付者の意向を受け、新たに奨学基金（「羽山昇・昭子奨学基金」）を設置し、基金の額を株式受入時の評価額による 1 億 2,950 万円としました。平成 25 年（2013 年）度以降、寄付株式から生ずる配当金を原資として奨学金の給付を行います。

## 1.4 主な事業活動実績

### ■ 行事・式典等

平成 24 年	4月 3日	<input type="checkbox"/> 短期大学入学式
	4月 4日	<input type="checkbox"/> 大学入学式
	4月 7日	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校入学式
	5月 13日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学オープンキャンパス開始(25年3月まで8回開催)
	6月 16日	<input type="checkbox"/> 中学校オープンスクール開始
	7月 28日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学修学就職支援フェア
	8月 4日	<input type="checkbox"/> 実践フェスタ 2012 開始(山形、以下8月26日秋田まで5か所で開催)
	9月 20日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学卒業式
	10月 8日	<input type="checkbox"/> 学祖下田歌子命日 墓前祭
	10月 10日	<input type="checkbox"/> 中学校運動会(駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館)
	10月 27日	<input type="checkbox"/> 中学校高等学校ときわ祭(10月27日、28日)
	10月 28日	<input type="checkbox"/> 第14回ホームカミングデー(渋谷キャンパス)
	11月 10日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学常磐祭(～11日)
	11月 10日	<input type="checkbox"/> 第14回ホームカミングデー(日野大坂上キャンパス)
平成 25 年	1月 25日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学一般入学試験Ⅰ期(試験会場:日野、仙台、宇都宮、高崎、渋谷、新潟、長野、静岡)(Ⅱ期2月2日3日、5日、Ⅲ期3月6日)
	2月 1日	<input type="checkbox"/> 中学校入学試験(～4日)
	3月 3日	<input type="checkbox"/> 高等学校卒業式
	3月 9日	<input type="checkbox"/> 父母セミナー
	3月 18日	<input type="checkbox"/> 中学校卒業式
	3月 19日	<input type="checkbox"/> 短期大学卒業式
	3月 20日	<input type="checkbox"/> 大学卒業式

### ■ 教育・研究関連

#### <大学院・大学・短期大学>

大学・短期大学将来構想	<input type="checkbox"/> 大学生生活科学部食生活科学科健康栄養専攻設置学則変更届出(7月20日届出) <input type="checkbox"/> 大学収容定員変更(健康栄養専攻設置に伴う編入学定員減)届出(7月20日届出) <input type="checkbox"/> 短期大学収容定員変更(日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科定員減)届出(7月13日届出) <input type="checkbox"/> 短期大学食物栄養学科学学生募集停止報告(7月13日提出) <input type="checkbox"/> 短期大学生活福祉学科廃止届出(9月20日廃止、11月9日届出)
公的研究資金の獲得	<input type="checkbox"/> 科学研究費補助金「描いた女性たちに関する研究―桃山時代から明治・大正期まで」他15件

#### <特別事業計画>

大学	<input type="checkbox"/> 学士力の充実と就業力の育成に向けた文学部修学支援への取り組み <input type="checkbox"/> 教員・司書等志望学生の人材養成のための教育・学習方法の改善 <input type="checkbox"/> 教員・司書等志望学生の人材養成のための教育・学習方法の広報 <input type="checkbox"/> 生活科学部教育への導入と展開 <input type="checkbox"/> 管理栄養士の学力向上を目指した教育環境の整備 <input type="checkbox"/> 学部レベルでのキャリア教育の推進
短期大学	<input type="checkbox"/> 実践的日本語力の定着を目指した取り組み <input type="checkbox"/> 国際化教育プログラムの実施 <input type="checkbox"/> 質の高い栄養士教育の実践 <input type="checkbox"/> 自ら考え、話し合い、行動する教師の育成をめざした授業方法の導入 <input type="checkbox"/> 図書館学課程受講生を対象に「読書の楽しみと図書館」の編集発行

〈実践女子学園プロジェクト研究所〉

研究プロジェクト名称	研究所名称	研究課題 (テーマ)	設置期間
桜楓散歩会	実践女子学園 健康栄養科学研究所	地域高齢者に対する生活機能向上と居場所づくりを目的とした大学の教育的支援活動の在り方	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子学園中・高・大連携教育における学習支援の開発研究プロジェクト	実践女子学園 中・高・大連携教育 開発研究所	中・高・大連携教育における生徒の学力向上を促す「教授法」及び「学習支援システム」の開発ー理科教育の学力向上を目指してー	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子大学、実践女子短期大学植栽プロジェクト	実践女子学園 植栽プロジェクト研 究所	多種の植栽に関わる活動を学生とともに実施しながら知識を取得したり、植物はもとより自然や環境問題にも興味をもってもらう	H23. 7. 20 ～H24. 12. 19 (廃止)
次世代型情報基盤教育への新展開	実践女子学園 社会情報教育イノベ ーション研究所	次世代型情報基盤教育の環境開発と高等教育への展開	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
下田歌子研究プロジェクト	実践女子学園 下田歌子研究所	下田歌子研究(事績研究、資料収集、アーカイブ作成、リーフレット作成、イベント開催、研究会開催)	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子大学食の風景プロジェクト	実践女子学園 食の風景プロジェク ト研究所	人々の生活範囲が世界的な広がりを見せるなかで、より日本的な事項をキーワードにあらゆる角度から研究することを主眼に、日仏の文学と食文化の比較を経て、人間力とは何かを探求することを目的とする。	H23. 7. 20 ～H25. 3. 31 (延長 H26. 3. 31)
「恵那と日野を結ぶ食と子ども」プロジェクト	実践女子学園 食育研究所	恵那と日野を結ぶ食と子どもに関する研究	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
「ソーシャル・リクルーティング×次世代人材育成」プロジェクト	実践女子学園 ソーシャル・リクル ーティング研究所	ソーシャル・リクルーティングの展開を踏まえた高等教育における次世代型人材育成・キャリア教育のあり方と実践	H24. 4. 1 ～H27. 3. 31
産学地域連携メディア協働開発プロジェクト	実践女子学園 産学地域連携メディ ア 協働開発研究所	地域メディアの協働的実践としての大学広報プロジェクト ー学生によるアーカイブ構築を通じた CI (カレッジアイデンティティ) 形成の観点から	H25. 4. 1 ～H28. 3. 31

■ 学生・生徒支援

奨学金制度の拡充	<input type="checkbox"/> 教職員奨学資金給付： 大学生 1 名
学長賞・校長賞等奨励賞授与	<input type="checkbox"/> 学長賞 [5 月授与式]、校長賞 [平成 25 年 3 月卒業式]

■ 東日本大震災対策・被災学生支援プロジェクト

経済的支援	<input type="checkbox"/> 授業料減免 (全額免除：全壊・大規模半壊、半額免除：半壊) 大学 全額免除 5 名、半額免除 12 名 短大 全額免除 3 名、半額免除 2 名 <input type="checkbox"/> 東日本大震災被災者支援奨学金 (300,000 円) 短大 3 名 300,000 円 <input type="checkbox"/> 学内アルバイト (JOB MATE) 大学 9 名、短大 2 名 (延べ 1,314 時間) 1,143,180 円
学生、被災地域支援	<input type="checkbox"/> ボランティア活動支援 宮古市田老地区支援プロジェクト (生活文化学科 教員、学生)

## ■ 国際交流活動

### <大学院・大学・短期大学>

協定校・交換留学生受入れ	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 前期2名、後期2名 <input type="checkbox"/> 中国・中国伝媒大学 後期4名 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 前期2名、後期1名
協定校・交換留学生派遣	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 交換協定校留学2名 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 交換協定校留学2名 <input type="checkbox"/> カナダ・フレージャーバレー大学 交換協定校留学1名 協定校留学1名
協定校・留学生派遣	<input type="checkbox"/> オーストラリア・ストッツカレッジ 派遣留学2名
語学研修プログラム（夏期）	<input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 <input type="checkbox"/> アメリカ・ワシントン大学 <input type="checkbox"/> イギリス・サセックス大学 合計 50名（大学・短期大学）
語学研修プログラム（春期）	<input type="checkbox"/> オーストラリア・ストッツカレッジ 14名（短期大学英語コミュニケーション学科）

### <中学校高等学校>

協定校・派遣留学生受入れ	<input type="checkbox"/> ドイツ・フェリクス・メンデルスゾーン・パーソルディー高等学校1名 <input type="checkbox"/> ドイツ・ヒルデガルドウェクシャイダー高等学校1名
協定校留学生派遣（短期）	<input type="checkbox"/> タイ・国立カセサート大学付属高等学校 1名 <input type="checkbox"/> ドイツ・ヒルデガルドウェクシャイダー高等学校 1名 <input type="checkbox"/> ドイツ・フェリクス・メンデルスゾーン・パーソルディー高等学校 1名
奨学制度留学生派遣	<input type="checkbox"/> ニュージーランド・オークランド語学学校 2名

## ■ 建学の精神の高揚—学祖下田歌子顕彰事業

岐阜県恵那市先人顕彰事業	<input type="checkbox"/> 恵那市、本学園等主催「第10回下田歌子賞」表彰式（平成25年1月19日）
法要、墓参	<input type="checkbox"/> 下田歌子先生77回忌法要、墓参（6月9日、10日）

## ■ 管理・運営

寄附行為変更	<input type="checkbox"/> 「短期大学生活福祉学科廃止」に係る寄附行為変更届出 （10月19日）（12月7日登記）
職員の資質向上のための研修の実施	<input type="checkbox"/> 一般職研修・管理職研修：業務改善、マネジメント （8月11日、9月1日）
常任理事集中討議の実施	<input type="checkbox"/> 常任理事会集中討議：2拠点展開のための基盤整備、2期整備計画の策定 （8月3日、4日）
内部監査の実施	<input type="checkbox"/> 理事会が策定する中期事業計画、年度予算等の経営方針との整合性 <input type="checkbox"/> 諸規程の整備状況 <input type="checkbox"/> 預貯金、債権等を含む財産の管理状況 <input type="checkbox"/> 平成24(2012)年度監査法人の気付き事項 <input type="checkbox"/> 平成23(2011)年度監事改善要望事項及び監査法人の気付き事項の改善状況 <input type="checkbox"/> 自己点検・評価の取り組み状況 <input type="checkbox"/> 公的研究資金
諸規程の整備	<b>【規則・規程】</b> <input type="checkbox"/> 「実践女子学園奨学基金規程による実践女子大学及び実践女子短期大学学長賞奨学金給付細則」（改正） <input type="checkbox"/> 「実践女子大学大学院下田奨学金給付規程」（改正） <input type="checkbox"/> 「実践女子大学大学院外国人研究生規程」（改正） <input type="checkbox"/> 「実践女子学園事務規程」及び関連諸規程（改正） <input type="checkbox"/> 「実践女子学園教職員厚生基金規程を廃止する規程」（制定） <input type="checkbox"/> 「実践女子大学・実践女子短期大学教育職員就業規則」及び「実践女子学園事務系及び労務系職員就業規則」（改正）

	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>「実践女子大学・大学院・短期大学の貸与奨学金の徴収不能に係る経理処理に関する内規」(制定)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園ホームページ委員会規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「学校法人実践女子学園ハラスメント防止委員会規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園高等学校短期留学に関する規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「羽山昇・昭子奨学基金規程」(制定)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園中学校高等学校代替教諭に関する内規」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子大学・同大学院及び短期大学専任教員の担当授業回数並びに附加給・減額等に関する内規」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子大学・実践女子短期大学下田奨学金給付規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「学校法人実践女子学園報酬・謝礼等の支出に関する規程」(制定)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園実習所管理規程」及び「実践女子学園実習所利用規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「契約職員規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子大学・短期大学研究助成費規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「中学校・高等学校専任教職員の担当授業時間並びに附加給に関する内規」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園職員等の旅費に関する規程」及び関連諸規程(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園中学校高等学校教育職員就業規則」及び関連諸規程(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子学園国際交流規程」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「実践女子大学・実践女子短期大学国際交流センター規程」(改正)</li> </ul> <p><b>【要綱】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>「東日本大震災修学支援資金運用要綱」(改正)</li> <li><input type="checkbox"/>「特命事項推進本部設置に関する要綱」(制定)</li> <li><input type="checkbox"/>「プロジェクトチーム設置に関する要綱」(制定)</li> <li><input type="checkbox"/>「東日本大震災被災学生支援に係る要綱」(制定)</li> </ul>
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>中学校・高等学校において防災訓練実施</li> <li><input type="checkbox"/>大学において、第1回、第2回避難訓練実施</li> <li><input type="checkbox"/>応急救護講習会の実施</li> </ul>

# 15 参考資料

## 2013 年度入学試験結果 (大学)

《一般入試》

【Ⅰ期(地方入試)】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	30	213	211	68	3.1	176.0	135.0	144.8	200	
	英文学科	110	25	300	298	203	1.5	168.0	112.0	131.8	200	
	美学美術史学科	90	20	97	95	84	1.1	184.0	99.0	128.2	200	
	計	310	75	610	604	355	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	10	178	174	36	4.8	189.0	156.0	166.8	200
		食物科学専攻	75	12	99	99	39	2.5	187.0	140.0	158.1	200
		健康栄養専攻	40	10	44	44	23	1.9	166.0	121.0	140.3	200
	生活環境学科	80	20	109	106	53	2.0	169.0	117.0	137.5	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	44	44	27	1.6	163.0	110.0	131.5	200
		幼児保育専攻	45	12	146	146	13	11.2	174.0	160.0	165.8	200
	計	350	74	620	613	191	-	-	-	-	-	
社会人部	人間社会学科／現代社会学科	200	30	504	499	177	2.8	181.0	129.0	144.1	200	
	計	200	30	504	499	177	-	-	-	-		
合計		860	179	1,734	1,716	723	-	-	-	-		

【Ⅱ期3科目型】※募集人員はⅡ期2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	32	30	25	1.2	217.0	122.0	171.6	300	
	英文学科	110	15	22	18	13	1.4	252.0	161.0	193.3	300	
	美学美術史学科	90	10	11	5	3	1.7	163.0	121.0	136.3	300	
	計	310	40	65	53	41	-	-	-	-		
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	24	83	76	24	3.2	281.0	224.0	243.9	300
		食物科学専攻	75	20	29	27	注① 20	2.7	238.0	200.0	218.3	300
		健康栄養専攻	40	10	20	20	15	1.3	254.0	165.0	193.9	300
	生活環境学科	80	10	20	16	5	3.2	243.0	200.0	219.2	300	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	15	14	注② 14	1.4	207.0	160.0	178.7	300
		幼児保育専攻	45	8	25	22	10	2.2	227.0	199.0	209.2	300
	計	350	82	192	175	88	-	-	-	-		
社会人部	人間社会学科／現代社会学科	200	28	89	81	34	2.4	243.0	180.0	201.3	300	
	計	200	28	89	81	34	-	-	-	-		
合計		860	150	346	309	163	-	-	-	-		

注①：第2志望合格者含む(管理栄養士専攻から10名、合格最低点205.0点) 注②：第2志望合格者含む(幼児保育専攻から4名、合格最低点161.0点)

【Ⅱ期2科目型】※募集人員はⅡ期3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	50	44	22	2.0	170.0	130.0	145.2	200	
	英文学科	110	15	66	50	37	1.4	164.0	107.0	127.1	200	
	美学美術史学科	90	10	15	9	7	1.3	154.0	109.0	131.1	200	
	計	310	40	131	103	66	-	-	-	-		
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	24	162	148	30	4.9	189.0	160.0	168.6	200
		食物科学専攻	75	20	61	53	25	2.1	177.0	133.0	150.0	200
		健康栄養専攻	40	10	33	29	18	1.6	169.0	122.0	148.2	200
	生活環境学科	80	10	17	10	6	1.7	136.0	128.0	132.0	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	11	10	注① 15	1.4	152.0	105.0	126.7	200
		幼児保育専攻	45	8	23	20	6	3.3	153.0	142.0	146.7	200
	計	350	82	307	270	100	-	-	-	-		
社会人部	人間社会学科／現代社会学科	200	28	99	89	31	2.9	173.0	140.0	151.2	200	
	計	200	28	99	89	31	-	-	-	-		
合計		860	150	537	462	197	-	-	-	-		

注①：第2志望合格者含む(幼児保育専攻から8名、合格最低点105.0点)

【Ⅲ期】

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	10	84	70	58	1.2	164.0	112.0	131.9	200	
	英文学科	110	5	86	73	8	9.1	161.0	150.0	153.5	200	
	美学美術史学科	90	5	39	34	28	1.2	164.0	95.0	119.7	200	
	計	310	20	209	177	94	-	-	-	-		
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	33	28	2	14.0	注②	注②	注②	200
		食物科学専攻	75	2	35	26	注① 5	8.7	154.0	151.0	152.3	200
		健康栄養専攻	40	3	20	18	3	6.0	155.0	140.0	148.3	200
	生活環境学科	80	5	22	19	5	3.8	154.0	132.0	141.4	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	44	40	16	2.5	161.0	122.0	133.3	200
		幼児保育専攻	45	3	20	16	8	2.0	158.0	130.0	143.3	200
	計	350	17	174	147	39	-	-	-	-		
社会人部	人間社会学科／現代社会学科	200	10	102	92	42	2.2	169.0	132.0	146.3	200	
	計	200	10	102	92	42	-	-	-	-		
合計		860	47	485	416	175	-	-	-	-		

注①：第2志望合格者含む(管理栄養士専攻から2名、合格最低点156.0点)

注②：合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

《センター試験利用入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	169	168	83	2.0	240.2	169.0	193.0	300	
	英文学科	110	20	299	298	174	1.7	228.3	160.1	182.0	300	
	美学美術史学科	90	15	134	134	115	1.2	168.4	96.4	121.6	200	
	計	310	50	602	600	372	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	6	236	235	92	2.6	270.4	211.0	230.4	300
		食物科学専攻	75	8	161	161	95	1.7	255.4	175.1	203.0	300
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	90	90	42	2.1	234.2	187.0	202.5	300	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	31	31	12	2.6	229.9	177.3	197.3	300
		幼児保育専攻	45	3	36	36	6	6.0	260.6	211.1	224.5	300
	計	350	29	554	553	247	-	-	-	-	-	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	25	412	411	205	2.0	235.7	165.1	189.2	300	
	計	200	25	412	411	205	-	-	-	-	-	
合計		860	104	1,568	1,564	824	-	-	-	-	-	

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	10	37	37	27	1.4	152.0	114.6	131.8	200	
	英文学科	110	5	71	71	30	2.4	138.6	118.2	127.7	200	
	美学美術史学科	90	5	25	25	21	1.2	149.0	103.6	120.6	200	
	計	310	20	133	133	78	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	13	13	2	6.5	注①	注①	注①	300
		食物科学専攻	75	3	22	22	17	1.3	155.0	119.0	137.9	200
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生活環境学科	80	5	12	12	6	2.0	165.0	137.0	148.5	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	22	22	17	1.3	145.8	115.6	128.2	200
		幼児保育専攻	45	2	10	10	4	2.5	149.4	137.6	140.9	200
	計	350	14	79	79	46	-	-	-	-	-	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	10	80	80	54	1.5	161.6	114.0	135.6	200	
	計	200	10	80	80	54	-	-	-	-	-	
合計		860	44	292	292	178	-	-	-	-	-	

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点

《公募推薦入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
文学部	国文学科	110	5	4	4	3	1.3	
	英文学科	110	6	4	4	4	1.0	
	美学美術史学科	90	2	2	2	2	1.0	
	計	310	13	10	10	9	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	3	26	26	4	6.5
		食物科学専攻	75	7	14	14	7	2.0
		健康栄養専攻	40	3	9	9	7	1.3
	生活環境学科	80	6	7	7	6	1.2	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	5	5	5	1.0
		幼児保育専攻	45	2	11	11	4	2.8
	計	350	23	72	72	33	-	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	8	10	10	5	2.0	
	計	200	8	10	10	5	-	
合計		860	44	92	92	47	-	

【Ⅱ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
文学部	国文学科	110	5	9	9	8	1.1	
	英文学科	110	-	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	2	2	2	2	1.0	
	計	310	7	11	11	10	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	10	10	3	3.3
		食物科学専攻	75	3	6	6	4	1.5
		健康栄養専攻	40	3	5	5	3	1.7
	生活環境学科	80	-	-	-	-	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	1	1	1	1.0
		幼児保育専攻	45	1	5	5	1	5.0
	計	350	11	27	27	12	-	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	4	9	9	3	3.0	
	計	200	4	9	9	3	-	
合計		860	22	47	47	25	-	



## 《自己推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
文学部	国文学科	110	-	-	-	-	-	
	英文学科	110	-	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	-	-	-	-	-	
	計	310	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	-	-	-	-	
		食物科学専攻	75	-	-	-	-	
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-	
	生活環境学科	80	1	0	0	0	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	-	-	-	-	-
		幼児保育専攻	45	-	-	-	-	-
	計	350	-	-	-	-	-	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	-	-	-	-	-	
	計	200	-	-	-	-	-	
合計		860	1	0	0	0	-	

## 《卒業生・在学生子女推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率		
文学部	国文学科	110	1	0	0	0	-		
	英文学科	110	2	1	1	1	1.0		
	美学美術史学科	90	1	0	0	0	-		
	計	310	4	1	1	1	-		
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	1	5	5	1	5.0	
		食物科学専攻	75	2	2	2	注①	4	1.0
		健康栄養専攻	40	1	1	1	1	1.0	
	生活環境学科	80	1	2	2	2	1.0		
	生活文化学科	生活文化専攻	40	1	1	1	1	1.0	
		幼児保育専攻	45	1	2	2	2	1.0	
	計	350	7	13	13	11	-		
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	4	0	0	0	-		
	計	200	4	0	0	0	-		
合計		860	15	14	14	12	-		

注①：第2志望合格者含む（管理栄養士専攻から2名）

## 《特別選抜入試》

【海外帰国子女入試】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	0	
	英文学科	110	若干名	0	0	0	
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	0	
	計	310	-	0	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	0	0	0
		食物科学専攻	75	若干名	0	0	0
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-
	生活環境学科	80	若干名	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	0	0
		幼児保育専攻	45	若干名	0	0	0
	計	350	-	0	0	0	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	若干名	0	0	0	
	計	200	-	0	0	0	
合計		860	-	0	0	0	

## 【社会人入試】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	0	
	英文学科	110	若干名	0	0	0	
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	0	
	計	310	-	0	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	1	1	1
		食物科学専攻	75	若干名	0	0	0
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-
	生活環境学科	80	若干名	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	0	0
		幼児保育専攻	45	若干名	0	0	0
	計	350	-	1	1	1	
社会人学部	人間社会学科／現代社会学科	200	若干名	0	0	0	
	計	200	-	0	0	0	
合計		860	-	1	1	1	

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ期を合わせた人数

【Ⅰ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-	
	英文学科	110	6	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	15	11	10	10	10	
	計	310	26	11	10	10	10	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	27	4	4	4
		食物科学専攻	75	5	13	6	6	6
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	25	22	22	22	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	3	3	3	3
		幼児保育専攻	45	4	29	7	7	7
	計	350	27	97	42	42	42	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	-	-	-	-	
	計	200	7	-	-	-	-	
合 計		860	60	108	52	52	52	

【Ⅱ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	12	4	4	4
	英文学科	110	6	6	3	3	3
	美学美術史学科	90	15	4	3	3	3
	計	310	26	22	10	10	10
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	-	-	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	0	0	0
		幼児保育専攻	45	4	12	1	1
	計	350	27	12	1	1	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	-	-	-	
	計	200	7	-	-	-	
合 計		860	60	34	11	11	11

【Ⅲ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-
	英文学科	110	6	-	-	-	-
	美学美術史学科	90	15	-	-	-	-
	計	310	26	0	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-
		健康栄養専攻	40	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	10	9	9	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	-	-	-
		幼児保育専攻	45	4	-	-	-
	計	350	27	10	9	9	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	31	8	8	
	計	200	7	31	8	8	
合 計		860	60	41	17	17	17

## 2013 年度入学試験結果 (短期大学)

《一般入試》

【Ⅰ期1科目型】※募集人員はⅠ期2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	15	21	21	20	1.1	82.0	43.0	62.0	100
英語コミュニケーション学科	100	10	観光ビジネスコース	0	0	-	-	-	-	100
			国際コミュニケーションコース	0	0	-	-	-	-	100
合計	180	25	21	21	20	-	-	-	-	-

【Ⅰ期2科目型】※募集人員はⅠ期1科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	15	3	3	3	1.0	139.0	97.0	124.3	200	
英語コミュニケーション学科	100	10	観光ビジネスコース	5	5	5	1.0	143.0	104.0	130.6	200
			国際コミュニケーションコース	5	5	5	1.0	155.0	120.0	133.6	200
合計	180	25	13	13	13	-	-	-	-	-	

【大学一般Ⅰ期併願】※募集人員はⅠ期1、2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	15	129	127	115	1.1	163.0	80.0	116.0	200	
英語コミュニケーション学科	100	10	観光ビジネスコース	83	82	81	1.0	173.0	58.0	119.6	200
			国際コミュニケーションコース	85	85	85	1.0	181.0	58.0	113.7	200
合計	180	25	297	294	281	-	-	-	-	-	

【Ⅱ期1科目型】※募集人員はⅡ期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	10	9	4	4	1.0	95.0	68.0	76.8	100	
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	2	2	2	1.0	注①	注①	注①	100
			国際コミュニケーションコース	1	0	0	-	-	-	-	100
合計	180	17	12	6	6	-	-	-	-	-	

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

【Ⅱ期2科目型】※募集人員はⅡ期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	10	5	2	2	1.0	注①	注①	注①	200	
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	1	1	1	1.0	注①	注①	注①	200
			国際コミュニケーションコース	5	3	3	1.0	164.0	143.0	151.0	200
合計	180	17	11	6	6	-	-	-	-	-	

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

【Ⅱ期センター併用2科目型】※募集人員はⅡ期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	10	2	2	2	1.0	注①	注①	注①	200	
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	0	0	0	-	-	-	-	200
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-	-	-	-	200
合計	180	17	2	2	2	-	-	-	-	-	

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

【Ⅱ期センター併用3科目型】※募集人員はⅡ期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	10	1	0	0	-	-	-	-	300	
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	0	0	0	-	-	-	-	300
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-	-	-	-	300
合計	180	17	1	0	0	-	-	-	-	-	

【Ⅲ期1科目型】※募集人員はⅢ期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	5	12	10	10	1.0	87.0	55.0	71.5	100	
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	4	3	3	1.0	91.0	70.0	80.7	100
			国際コミュニケーションコース	2	2	2	1.0	注①	注①	注①	100
合計	180	10	18	15	15	-	-	-	-	-	

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

【Ⅲ期2科目型】 ※募集人員はⅢ期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	4	4	4	1.0	149.0	111.0	133.5	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	7	7	6	1.2	173.0	130.0	152.2	200
			4	3	3	1.0	172.0	126.0	142.3	200
合計	180	10	15	14	13	-	-	-	-	-

【Ⅲ期センター併用2科目型】 ※募集人員はⅢ期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	0	0	0	-	-	-	-	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	1	1	1	1.0	注①	注①	注①	200
			0	0	0	-	-	-	-	200
合計	180	10	1	1	1	-	-	-	-	-

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

【Ⅲ期センター併用3科目型】 ※募集人員はⅢ期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	0	0	0	-	-	-	-	300
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	0	0	0	-	-	-	-	300
			0	0	0	-	-	-	-	300
合計	180	10	0	0	0	-	-	-	-	-

《センター試験利用入試》

【Ⅰ期1科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅰ期2科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	17	17	17	1.0	76.0	29.0	54.9	100
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	1	1	1	1.0	注①	注①	注①	100
			2	2	2	1.0	注①	注①	注①	100
合計	180	8	20	20	20	-	-	-	-	-

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点

【Ⅰ期2科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅰ期1科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	13	12	12	1.0	113.0	80.8	96.8	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	14	14	14	1.0	136.2	87.8	107.1	200
			15	15	15	1.0	126.2	79.0	105.9	200
合計	180	8	42	41	41	-	-	-	-	-

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期1科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅱ期2科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	7	7	5	1.4	79.0	45.0	58.8	100
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	1	1	1	1.0	注①	注①	注①	100
			1	1	1	1.0	注①	注①	注①	100
合計	180	8	9	9	7	-	-	-	-	-

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点

【Ⅱ期2科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅱ期1科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	5	5	5	1.0	116.0	90.0	104.2	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	2	2	2	1.0	注①	注①	注①	200
			10	10	10	1.0	150.8	93.4	112.6	200
合計	180	8	17	17	17	-	-	-	-	-

注①合格者が2名以下のため、合格最高点、合格最低点、合格平均点は非公表です。

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点

【Ⅲ期1科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅲ期2科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	8	8	7	1.1	86.0	63.0	70.7	100
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	3	3	3	1.0	63.6	51.2	58.9	100
			4	4	4	1.0	70.8	58.4	63.7	100
合計	180	8	15	15	14	-	-	-	-	-

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅲ期2科目型】 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅲ期1科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	9	9	8	1.1	156.0	113.4	129.9	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	9	9	8	1.1	140.2	97.0	119.2	200
			9	9	9	1.0	140.2	101.6	123.2	200
合計	180	8	27	27	25	-	-	-	-	-

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

《公募推薦入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	7	1	1	1	1.0
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
合計	180	14	2	2	2	-

【Ⅱ期】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	3	2	2	2	1.0
英語コミュニケーション学科	100	3	観光ビジネスコース	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	2	2	1.0
合計	180	6	5	5	5	-

《卒業生・在学生子女推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	2	3	3	3	1.0
英語コミュニケーション学科	100	2	観光ビジネスコース	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
合計	180	4	3	3	3	-

《自己推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	2	3	3	2	1.5
英語コミュニケーション学科	100	3	観光ビジネスコース	2	2	1.0
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
合計	180	5	5	5	4	-

《特別選抜入試》

【海外帰国子女入試】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	若干名	0	0	0	-
英語コミュニケーション学科	100	若干名	観光ビジネスコース	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
合計	180	-	1	1	1	-

【社会人入試】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	若干名	2	2	2	1.0
英語コミュニケーション学科	100	若干名	観光ビジネスコース	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
合計	180	-	2	2	2	-

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期を合わせた人数

【Ⅰ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	7	7	7	7	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	7	6	6	6
			国際コミュニケーションコース	2	2	2	2
合計	180	25	16	15	15	15	

【Ⅱ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	1	1	1	1	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	3	3	3	3
			国際コミュニケーションコース	3	3	3	3
合計	180	25	7	7	7	7	

【Ⅲ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	3	3	3	3	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	2	2	2	2
			国際コミュニケーションコース	2	2	2	2
合計	180	25	7	7	7	7	

【Ⅳ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	1	1	1	1	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	2	1	1	1
			国際コミュニケーションコース	1	0	0	0
合計	180	25	4	2	2	2	

2013 年度入学試験結果 (大学：編入学)

《編入学試験》

【一般編入学 / I 期】 ※募集人員は一般編入学 I 期・II 期を合わせた人数

学部・学科・専攻		編入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	13	3	1	1	0	
	英文学科	13	3	1	1	0	
	美学美術史学科	8	2	1	1	1	
	計	34	8	3	3	1	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	2	若干名	12	10	4
		食物科学専攻	2	若干名	1	1	1
	生活環境学科	2	若干名	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	2	若干名	1	1	0
		幼児保育専攻	2	若干名	0	0	0
	計	10	-	14	12	5	
会人学間部社	人間社会学科	10	5	2	2	1	
	現代社会学科	10	5	1	1	0	
	計	20	10	3	3	1	
合計		64	-	20	18	7	

【一般編入学 / II 期】 ※募集人員は一般編入学 I 期・II 期を合わせた人数

学部・学科・専攻		編入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	13	3	2	2	1	
	英文学科	13	3	3	3	1	
	美学美術史学科	8	2	2	2	2	
	計	34	8	7	7	4	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	2	若干名	6	6	1
		食物科学専攻	2	若干名	0	0	0
	生活環境学科	2	若干名	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	2	若干名	2	2	2
		幼児保育専攻	2	若干名	1	1	0
	計	10	-	9	9	3	
会人学間部社	人間社会学科	10	5	4	3	2	
	現代社会学科	10	5	2	2	1	
	計	20	10	6	5	3	
合計		64	-	22	21	10	

【内部編入学】

学部・学科・専攻		編入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	13	10	7	7	7	
	英文学科	13	10	10	10	10	
	美学美術史学科	8	6	0	0	0	
	計	34	26	17	17	17	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	2	若干名	2	2	2
		食物科学専攻	2	若干名	2	2	2
	生活環境学科	2	若干名	2	2	2	
	生活文化学科	生活文化専攻	2	若干名	0	0	0
		幼児保育専攻	2	若干名	0	0	0
	計	10	-	6	6	6	
会人学間部社	人間社会学科	10	5	3	3	3	
	現代社会学科	10	5	0	0	0	
	計	20	10	3	3	3	
合計		64	-	26	26	26	

2013 年度入学試験結果 (大学院)

研究科・専攻	志願者等	内部				一般				社会人				外国人				計		
		I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期			
文学研究科	国文学専攻 (博士後期)	志願者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
		合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
	国文学専攻 (博士前期)	志願者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
		合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
	英文学専攻 (修士)	志願者	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
		合格者	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
美術史学専攻 (博士後期)	志願者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0		
	合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0		
美術史学専攻 (博士前期)	志願者	-	1	1	-	-	1	0	-	-	0	0	-	-	0	0	1	-	4	
	合格者	-	1	1	-	-	1	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	3		
生活科学研究科	食物栄養学専攻 (博士後期)	志願者	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
		合格者	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	食物栄養学専攻 (博士前期)	志願者	0	2	1	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	3	
		合格者	0	2	1	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	3	
	生活環境学専攻 (修士)	志願者	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
		合格者	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
人間社会専攻 (修士)	志願者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	合格者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
合計	志願者	0	6	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	13		
	合格者	0	6	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11		



## 2013年度 実践女子学園中学校入試結果

### ■スタンダード実践クラス(SJC)《一般学級》

	第1回	第2回	第3回	一般合計	帰国1	帰国2	帰国合計	SJC合計
募集人数	90	70	60	220	合計20		20	240
志願者数	253	545	494	1292	42	32	74	1366
(志願者倍率)	(2.8)	(7.8)	(8.2)	(5.9)	(2.1)	(1.6)	(3.7)	(5.7)
受験者数	230	353	206	789	42	10	52	841
合格者数	116	136	79	331	37	8	45	376
(実質倍率)	(2.0)	(2.6)	(2.6)	(2.4)	(1.1)	(1.3)	(1.2)	(2.2)
追加合格	47				0	0	0	47
入学者数	230				11	4	15	245

### ■グローバルスタディーズクラス(GSC)《国際学級》

	一般入試	帰国1	帰国2	帰国合計	GSC合計
募集人数	合計35				35
志願者数	50	40	18	58	108
(志願者倍率)	(1.4)	(1.1)	(0.5)	(1.7)	(3.1)
受験者数	48	40	11	51	99
合格者数	35	35	8	43	78
(実質倍率)	(1.4)	(1.1)	(1.4)	(1.2)	(1.3)
追加合格	6	0	0	0	6
入学者数	15	7	4	11	26

### ■得点状況(一般入試)

	科目	配点・時間	全受験生		合格者	
			最高点	平均点	合格者平均点	合格者最低点
第1回	国語	100点・50分	86	60	67	
	算数	100点・50分	87	54	65	
	社会	50点	42	29	33	
	理科	50点	41	21	25	
	4科合計		247	164	189	166
第2回	国語	100点・50分	96	66	73	
	算数	100点・50分	100	56	72	
	社会	50点	38	22	23	
	理科	50点	42	23	28	
	4科合計		248	167	197	175
第3回	国語	100点・50分	87	57	66	
	算数	100点・50分	100	57	69	
	社会	50点	46	25	32	
	理科	50点	37	20	23	
	4科合計		268	156	187	164
GSC	国語	3科 100点・50分	65	47	54	
		4科 100点・50分	80	56	60	
	算数	3科 100点・50分	81	47	59	
		4科 100点・50分	100	62	66	
	英語	100点・50分	85	60	70	
	社会	50点	36	24	25	
	理科	50点	46	26	29	
	3科合計(国・算・英)		213	154	183	144
4科合計(国・算・社・理)		233	169	181	146	

\* 合格判定は4教科(3教科)の合計点によるため、科目ごとの合格最低点是非公表

\* 帰国生入試は、学科試験・面接の総合判定のため得点是非公表

平成 24 年度卒業生及び修了生数

【大学】

学部	学科・専攻	卒業生数	
文学部	国文学科	150	
	英文学科	146	
	美学美術史学科	86	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	93
		食物科学専攻	85
	生活環境学科	95	
	生活文化学科	生活文化専攻	64
		幼児保育専攻	46
人間社会学部	人間社会学科	160	
合 計		925	

\* 9月卒業生を含む。

【大学院】

■修了生数

専攻名		修了生数	満期退学
文学研究科	国文学専攻	博士後期課程	0
		博士前期課程	5
	英文学専攻	修士課程	0
	美術史学専攻	修士課程	8
生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士後期課程	0
		博士前期課程	1
	生活環境学専攻	修士課程	1
人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	0
合 計		15	0

\* 9月修了生を含む。

■学位授与数

学位名	人数
博士(文学)	0
博士(食物栄養学)	0
修士(文学)	13
修士(食物栄養学)	1
修士(生活科学)	1
修士(人間社会)	0
合 計	15

【短期大学】

学科・コース	卒業生数	
日本語コミュニケーション学科	74	
英語コミュニケーション学科	観光ビジネスコース	49
	国際コミュニケーションコース	30
生活福祉学科	1	
食物栄養学科	80	
合 計	234	

\* 9月卒業生を含む。

【高等学校・中学校】

高等学校	313
中学校	269
合 計	582

卒業生数 合計

大学	925
大学院	15
短期大学	234
高等学校	313
中学校	269
合 計	1,756

平成24年度(平成25年3月)卒業生 進路状況及び業種別就職状況(大学・短期大学)

平成25年5月1日現在

【進路状況】

	学 部	卒業生数	進 路 希 望					就職 内定者	就職 内定率
			就職	進学 [大学院・大学]	進学 [専門学校]	留学	その他		
大 学	文 学 部	380	307 (80.8%)	11 (2.9%)	5 (1.3%)	1 (0.3%)	56 (14.7%)	256 (70.5%)	83.4%
	生活科学部	381	342 (89.8%)	7 (1.8%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	31 (8.1%)	327 (87.7%)	95.6%
	人間社会学部	158	136 (86.1%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	20 (12.7%)	129 (82.7%)	94.9%
	大 学 計	919	785 (85.4%)	19 (2.1%)	7 (0.8%)	1 (0.1%)	107 (11.6%)	712 (79.8%)	90.7%
短 期 大 学		231	145 (62.8%)	43 (18.6%)	11 (4.8%)	6 (2.6%)	26 (11.2%)	133 (77.8%)	91.7%
合 計		1150	930 (80.9%)	62 (5.4%)	18 (1.6%)	7 (0.6%)	133 (11.5%)	845 (79.5%)	90.9%

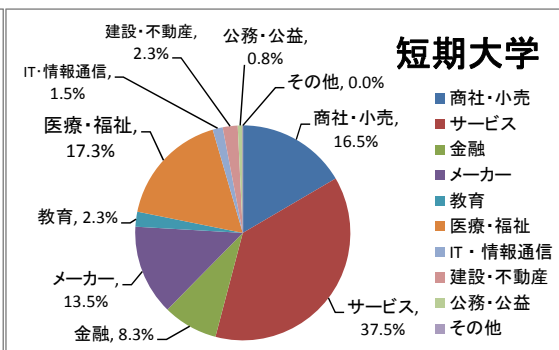
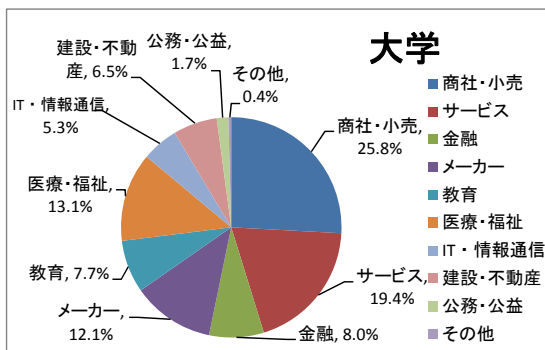
※卒業生数以外の数字は学生の申告を基に算出しています。

※就職内定率は就職希望者に対する就職内定者で算出しています。【就職内定者/進路希望(就職)】

※就職内定者欄 下段の割合(%)は、卒業生から進学希望者(大学院・大学・専門学校・留学)を除いた人数に対する就職内定者で算出しています。【就職内定者/(卒業生数-進路希望(進学[大学院・大学、専門学校](留学)))】

【業種別就職状況】

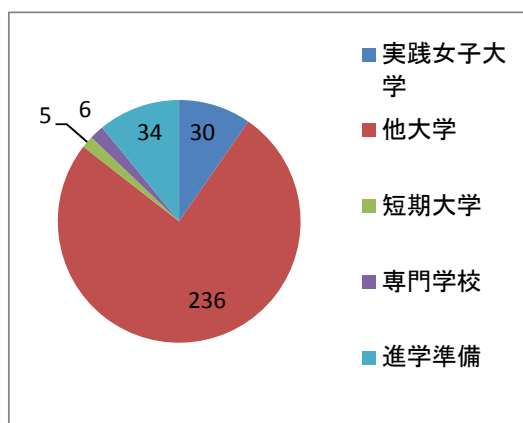
	文学部	生活科学部	人間社会学部	大 学	短期大学	合 計
商社・小売	63 (24.5%)	83 (25.4%)	38 (29.4%)	184 (25.8%)	22 (16.5%)	206 (24.4%)
サービス	57 (22.3%)	61 (18.7%)	20 (15.4%)	138 (19.4%)	50 (37.5%)	188 (22.2%)
金融	24 (9.4%)	15 (4.6%)	18 (14.0%)	57 (8.0%)	11 (8.3%)	68 (8.0%)
メーカー	29 (11.3%)	42 (12.8%)	15 (11.6%)	86 (12.1%)	18 (13.5%)	104 (12.3%)
教育	16 (6.3%)	34 (10.4%)	5 (3.9%)	55 (7.7%)	3 (2.3%)	58 (6.9%)
医療・福祉	25 (9.8%)	56 (17.1%)	12 (9.3%)	93 (13.1%)	23 (17.3%)	116 (13.7%)
IT・情報通信	19 (7.4%)	13 (4.0%)	6 (4.7%)	38 (5.3%)	2 (1.5%)	40 (4.7%)
建設・不動産	17 (6.6%)	16 (4.9%)	13 (10.1%)	46 (6.5%)	3 (2.3%)	49 (5.8%)
公務・公益	5 (2.0%)	7 (2.1%)	0 (0.0%)	12 (1.7%)	1 (0.8%)	13 (1.5%)
その他	1 (0.4%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	3 (0.4%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)



平成24年度 高等学校卒業生進学状況（卒業生313名）

平成24年度高等学校卒業生進学状況

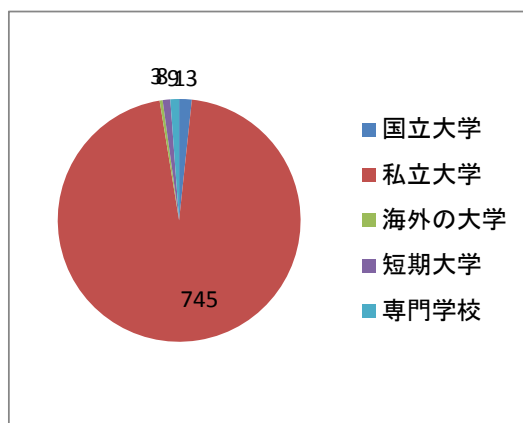
	人数	%
実践女子大学	30	9.6
他大学	236	75.4
短期大学	5	1.6
専門学校	6	1.9
進学準備	34	10.9
留学	2	0.6
合計	313	100



平成24年度大学等合格状況

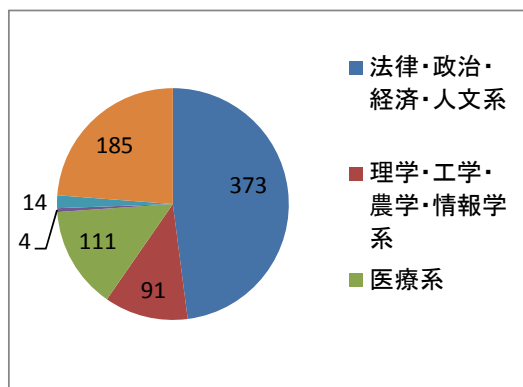
【合格実績】

	人数	%
国立大学	13	1.7
私立大学	745	95.7
海外の大学	3	0.4
短期大学	8	1
専門学校	9	1.2
合計	778	100



【分野別合格実績】

	人数	%
法律・政治・経済・人文系	373	47.9
理学・工学・農学・情報学系	91	11.7
医療系	111	14.3
体育系	4	0.5
芸術系	14	1.8
女子大学系	185	23.8
合計	778	100



### III 財務の概要<sup>1</sup>

#### 決算書類等

平成 24 年度財務の概要を説明するにあたり、以下の計算書類等を添付しました。

- (1) 資金収支計算書（総括表）
- (2) 消費収支計算書（総括表）
- (3) 貸借対照表（総括表）

(各計算書類の詳細は、学園ウェブサイト内 財務情報公開ページ <<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a07a05a03>>に掲載している「平成 24 年度 計算書類」をご確認ください。)

#### 1 資金収支計算書の状況 (P. 48「資金収支計算書（総括表）」)

資金収支計算書は、平成 24 年度中のすべての資金の流れを表示したものです。

前年度繰越支払資金	50 億 6,616 万円	(B)
<u>当年度資金収入</u>	<u>127 億 4,711 万円</u>	(A)
総資金収入	178 億 1,327 万円	(C)
<u>当年度資金支出</u>	<u>125 億 6,659 万円</u>	(D)
次年度繰越支払資金	52 億 4,668 万円	(E)

当年度中の資金収入総額 178 億 1,327 万円(C=A+B)に対して、人件費、教育研究活動、施設設備等の資金支出は 125 億 6,659 万円(D)となり、次年度に繰り越される支払資金は 52 億 4,668 万円(E=C-D)となりました。

#### 2 消費収支計算書の状況 (P. 48「消費収支計算書（総括表）」)

消費収支計算書は、平成 24 年度中の消費収入と消費支出との均衡状態を示すものです。

当年度帰属収入	80 億 6,572 万円	① (消費収支計算書総括表 a~g 合計)
<u>基本金組入額</u>	<u>13 億 4,674 万円</u>	②
消費収入	67 億 1,898 万円	③ (① - ②)
<u>消費支出</u>	<u>73 億 9,767 万円</u>	④ (消費収支計算書総括表 h~n 合計)
当年度消費支出超過額	6 億 7,869 万円	⑤

##### (1) 帰属収入 (P. 48「図 1. ①帰属収入内訳」)

学生生徒等納付金(a)は、学生生徒数が 6,065 名(5 月 1 日現在)と前年度比 200 名減少したため、納付金総額では前年度比 1 億 5,129 万円減の 62 億 1,911 万円となりました(予算比 1,447 万円減)。

手数料(b)は、入学検定料が志願者数の増加で 1 億 7,707 万円に増加したことから、総額でも予算比 2,995 万円増の 1 億 8,673 万円となりました。

寄付金(c)は、創立 120 周年記念 1 期整備計画募金が 4,508 万円のほか、奨学基金向けに株式の現物寄付 1 億 2,950 万円の受入があり、寄付金総額では 2 億 5,098 万円(予算比 1,222 万円減)となりました。

補助金(d)は、主に大学・短期大学に対する国庫補助金 4 億 1,163 万円と中学校高等学校への東京都等からの補助金 5 億 8,190 万円の計 9 億 9,353 万円(予算比 569 万円増)となりました。

これらの結果、帰属収入合計(①)は 80 億 6,572 万円(予算比 2,439 万円増)となりました。

<sup>1</sup> 文中の「予算」は平成 24 年度補正予算を示す。

## (2) 基本金組入額

第1号基本金への組入は、校舎、構築物、機器備品、図書等の施設設備及び過年度において資産取得に充てた借入金の前年度元金返済分、リース未払金の当期支払額等であり、当年度は21億4,724万円を組み入れました。このうち創立120周年1期整備計画の進捗(建設仮勘定)に係る組入は17億6,281万円です。

第2号基本金には、学部学科改革(創立120周年)整備資金として2億5,000万円を組み入れましたが、創立120周年1期整備計画に係る第1号基本金への振替が12億円あり、当年度末残高は前年度比9億5,000万円減少しました。

第3号基本金としては、まず、平成23年度から5年計画で実施している奨学基金拡充策に従い、前年度同様2,000万円を組み入れました。また、上記の株式現物寄付の受け皿として新たな奨学基金を設置したことにより、株式受入日(平成24年10月31日)現在の評価額1億2,950万円を基本金に組み入れました。したがって、当年度の第3号基本金組入額は、計1億4,950万円となりました。

以上の結果、基本金組入額合計(②)は、予算比1億3,258万円増の13億4,674万円となりました。

帰属収入合計(①)から基本金組入額合計(②)を控除した消費収入の部合計(③)は、予算比1億819万円減の67億1,898万円となりました。

## (3) 消費支出 (P. 48「図2. ④消費支出内訳」)

消費支出の中で最も大きな割合を占めるのが人件費(h)で、当年度は前年度比5,730万円増加し48億1,133万円となりました。この額は帰属収入の59.6%、消費支出合計の65.0%にあたります。これに教育研究経費(i)等を加えた消費支出の部合計(④)は、予算額を1億2,130万円下回る73億9,767万円となりました。

なお、奨学貸付金(長期貸付金)に係る徴収不能引当金繰入額を29万円追加計上しましたので、当年度末徴収不能引当金の合計は62万円となりました。

## (4) 消費収支差額

当年度の消費収支差額(⑤=③-④)は6億7,869万円の支出超過となり、消費支出超過額の累計(p)は8億7,426万円に拡大しました。

## 3 貸借対照表の状況 (P. 49「貸借対照表(総括表)」)

貸借対照表は、当年度末時点での財政状態、すなわち資産及び負債・基本金・消費収支差額の状態を示す計算書です。企業会計と異なり、学校会計では資本の概念が無いため、基本金として組み入れている金額と当年度末までの消費収支計算の結果である消費収支差額が、貸借対照表の貸方に計上されていることが大きな特徴となっています。

### (1) 資産総額

資産総額(ア)は396億4,982万円で、前年度末比14億4,415万円増加しました。その内訳は有形固定資産207億6,023万円(前年度末比22億6,727万円増)、その他の固定資産134億927万円(同10億3,377万円減)及び流動資産54億8,031万円(同2億1,064万円増)です。

主な増減要因は、新大学・短期大学棟(渋谷)建設工事の進捗による建設仮勘定の増加27億6,281万円、及びその支払に充当するために取り崩した施設設備維持引当特定資産の減少5億5,672万円、学部学科改革整備資金引当特定資産の減少9億5,000万円です。他方、新学科等の設置に備えて有価証券を3億円積み増し、その保有残高は9億円となりました(関係会社等の株式を除く)。

(2) 負債総額

負債総額(イ)は71億1,284万円で、前年度末比7億7,610万円増加しました。その内訳は、固定負債52億2,268万円(前年度末比8億2,596万円増)、流動負債18億9,017万円(同4,986万円減)です。固定負債の増加は、新大学・短期大学棟建設資金として日本私立学校振興・共済事業団から10億円の長期借入(期間20年)を行ったことによります。

(3) 基本金

基本金(ウ)は334億1,123万円となりました。その内訳は、校地・校舎・機器備品・図書など教育研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金が308億380万円、創立120周年記念整備事業資金を留保するための第2号基本金が10億5,000万円、奨学基金・教育研究基金などの運用果実を教育研究に充てるための第3号基本金が9億2,950万円等となっています。

(4) 消費収支差額

翌年度繰越消費支出超過額(エ)は、当年度消費支出超過額(⑤)6億7,869万円によって増加し、8億7,426万円となりました。

#### 4 収益事業決算の状況 (P.49「収益事業会計」)

学園寄附行為第6条に基づく保険代理業に係る計算書類です。公益事業である学校運営遂行のため、主に学生・生徒総合補償制度保険により収益を上げ、学校会計に寄付することを目的としています。なお、収益事業会計の決算報告書数値は千円未満を調整し、千円単位としています。

(1) 損益計算書

損害保険手数料の営業収入等4,438千円から印刷費等の営業費用1,162千円を控除した営業利益3,276千円に、預金等の受取利息である営業外損益を加えた経常利益は3,278千円となりました。ここから、学校会計繰入金支出(寄付金)2,500千円、法人税等充当金100千円を控除した当期純利益は678千円となりました。

なお、学校会計繰入金支出は、学校会計の事業収入科目「収益事業収入」に計上されています。

(2) 貸借対照表

当期の資産合計は30,216千円で、負債合計は21,912千円、純資産合計は8,304千円となりました。なお、純資産の部の出資金1,000千円は学校会計の貸借対照表科目「その他の固定資産：収益事業元入金」の金額と一致しています。

#### 5 今後の財政上の課題

本学園では、入学対象人口の更なる減少に備えて、短期大学及び中学校・高等学校を中心に定員のスリム化を進めてきました。それに伴い帰属収入は減少を続け、学生生徒数がボトムとなる平成26～27年度には、下方硬直的な人件費に加え、消費税率引き上げや2校地化による経費負担の増加によって、帰属収支差額の大幅な悪化が懸念されます。収入の減少に見合った支出構造への転換を図ることが喫緊の課題であります。

こうした状況の中、創立120周年1期整備計画(当初計画87億円)に続いて、同2期整備計画(30億円超)も俎上に載せられており、当面旺盛な資金需要が続きます。これら事業の遂行によって手元資金・運用資金が、学園が適正と考える水準を下回るおそれがあります。したがって、手元資金・運用資金の積み増しも今後の大きな課題となってきます。

これらの課題を克服するためには、以下の項目への取り組みが避けて通れません。

- (1) 適正な人件費水準の検討
- (2) 事業のスクラップ&ビルドを可能にし柔軟な支出構造への転換を図るための事業計画策定及び予算編成方法の見直し
- (3) 部門別収支の目標水準とそれを達成するための方策の検討

参考として、末尾に今年度の部門別消費収支計算書・比率表を添付しました (P. 56)。学園改革の遂行には財務の健全性維持が欠かせません。各部門の事業内容・収支構造分析に基づいた上記対応策を順次講じていかなければなりません。



## 消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移（平成20年度～平成24年度）

過去5年間の財務状況推移を確認する資料として、P. 50以降に推移・比較表を添付しました（表ならびにグラフの金額については、百万円未満を調整し百万円単位としています）。

### 1 消費収支の推移

（P. 50「消費収支の推移表」、P. 53 図表 参照）

平成20年度から同24年度の4年間に帰属収入は1億6,900万円減少し、消費支出は1億3,500万円減少しました。帰属収支差額は黒字を維持していますが、消費収支差額については、平成23～24年度に赤字（支出超過）となりました。これは、創立120周年記念整備事業1期整備計画に伴う基本金組入によるものです。

### 2 貸借対照表の推移

（P. 50「貸借対照表の推移表」、P. 54 -55 図表 参照）

平成24年度の資産総額は396億5,000万円で、平成20年度の368億4,500万円から毎年度着実に増加しています（4年間の増加額28億500万円）。その内訳を見ると、「有形固定資産」が21億3,400万円増加して207億6,000万円となったのに対して、「その他の固定資産（主として金融資産）」は8億4,900万円減少し134億900万円となりました。金融資産の中でも、事業財源である「第2号基本金引当資産」は取崩しにより減少しましたが、奨学研究基金である「第3号基本金引当資産」は着実に増加しています。一方、「流動資産」は15億1,900万円増加して54億8,000万円となりました。

負債総額は、平成24年度71億1,300万円で、平成20年度から7億3,000万円増加しました。これは平成24年度に日本私立学校振興・共済事業団からの新たな10億円の長期借入金によるものです。平成24年度の退職給与引当金は28億6,200万円で、そのうち67.6%を退職給与引当特定資産として保有しています。

基本金は、平成24年度334億1,100万円で、平成20年度より20億9,300万円増加しました。そのうち第1号基本金は27億8,300万円、第3号基本金は2億1,000万円、各々増加し、第2号基本金は第1号基本金への振替により9億円減少しました。

消費収支差額（繰越消費支出超過額）は、平成24年度8億7,400万円で、同20年度とほぼ同水準に戻りました。基本金と消費収支差額を合わせた自己資金は325億3,700万円となり、平成20年度比20億7,500万円増加しています。自己資金構成比率（自己資金/総資金）は、ほぼ同水準で推移し、平成24年度は82.1%となっています。この比率は、同規模法人の平均である85.8%より3.7%低い値です。

[学校会計]

※表中の「予算」は平成24年度補正予算を示す。表示金額は全て千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがある。

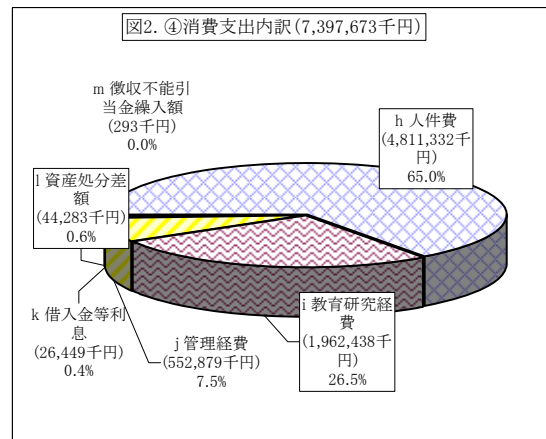
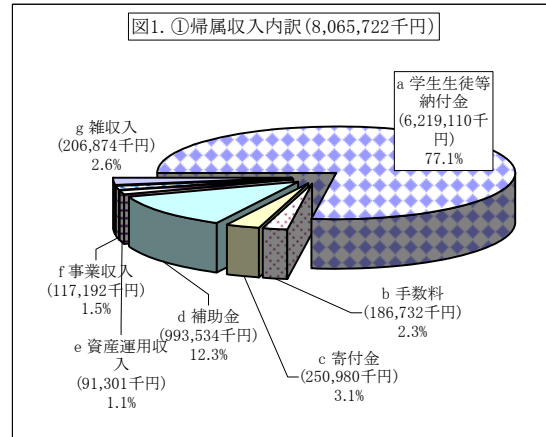
資金収支計算書(総括表) (単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,233,581	6,219,110	14,471
手数料収入	156,778	186,732	△ 29,954
寄付金収入	133,700	114,222	19,478
補助金収入	987,841	993,534	△ 5,693
資産運用収入	87,597	91,301	△ 3,704
A 事業収入	113,079	117,192	△ 4,113
雑収入	199,252	206,874	△ 7,622
借入金等収入	1,000,000	1,000,000	0
前受金収入	1,064,485	1,315,939	△ 251,454
その他の収入	3,920,078	3,899,412	20,666
資金収入調整勘定	△ 1,412,031	△ 1,397,203	△ 14,828
B 前年度繰越支払資金	5,066,164	5,066,164	
C 収入の部合計	17,550,524	17,813,277	△ 262,753
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,771,798	4,776,864	△ 5,066
教育研究経費支出	1,368,731	1,306,864	61,867
管理経費支出	562,187	497,143	65,044
借入金等利息支出	26,449	26,449	0
借入金等返済支出	138,870	138,870	0
D 施設関係支出	2,867,786	2,846,610	21,176
設備関係支出	243,725	207,884	35,841
資産運用支出	649,084	651,049	△ 1,965
その他の支出	2,287,339	2,229,688	57,651
予備費	50,000		50,000
資金支出調整勘定	△ 119,266	△ 114,826	△ 4,440
E 次年度繰越支払資金	4,703,821	5,246,682	△ 542,861
支出の部合計	17,550,524	17,813,277	△ 262,753

消費収支計算書(総括表) (単位:千円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
a 学生生徒等納付金	6,233,581	6,219,110	14,471
b 手数料	156,778	186,732	△ 29,954
c 寄付金	263,200	250,980	12,220
d 補助金	987,841	993,534	△ 5,693
e 資産運用収入	87,597	91,301	△ 3,704
f 事業収入	113,079	117,192	△ 4,113
g 雑収入	199,252	206,874	△ 7,622
① 帰属収入合計	8,041,328	8,065,722	△ 24,394
② 基本金組入額合計	△ 1,214,154	△ 1,346,736	132,582
③ 消費収入の部合計	6,827,174	6,718,986	108,188
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
h 人件費	4,814,214	4,811,332	2,882
i 教育研究経費	1,985,120	1,962,438	22,682
j 管理経費	613,195	552,879	60,316
k 借入金等利息	26,449	26,449	0
l 資産処分差額	30,000	44,283	△ 14,283
m 徴収不能引当金繰入額	0	293	△ 293
n 予備費	50,000		50,000
④ 消費支出の部合計	7,518,978	7,397,673	121,305
⑤ 当年度消費支出超過額	691,804	678,687	
o 前年度繰越消費支出超過額	195,572	195,572	
p 翌年度繰越消費支出超過額	887,376	874,259	
当年度帰属収支差額	522,350	668,049	

[図表 消費収支計算書]



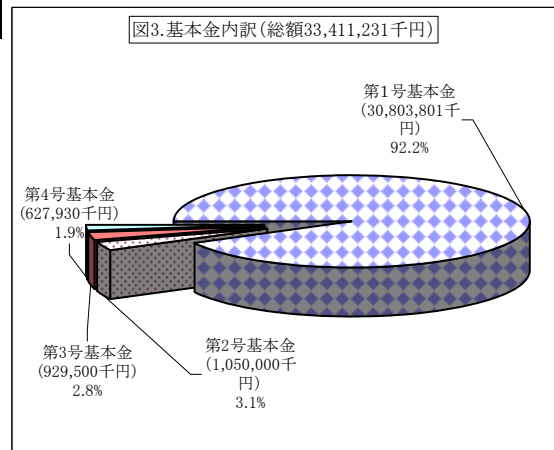
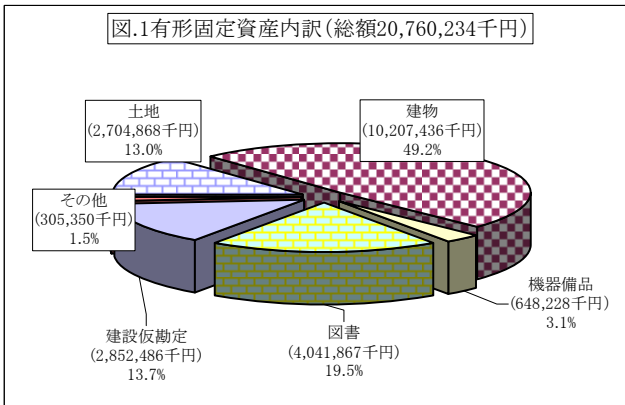
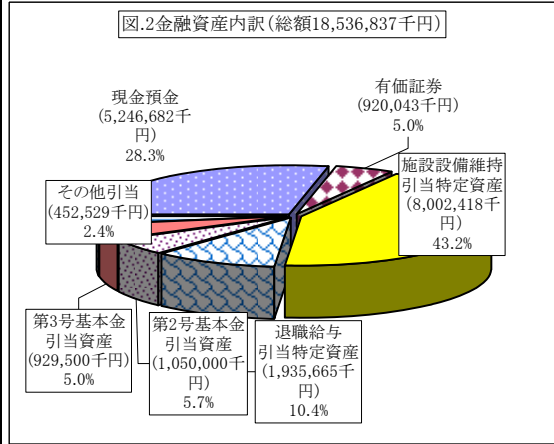
※表示金額は全て千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがある。

【学校会計】 貸借対照表(総括表)

(単位:千円) 【図表 貸借対照表】

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
固定資産	34,169,506	32,935,997	1,233,509
有形固定資産	20,760,234	18,492,960	2,267,274
その他の固定資産	13,409,271	14,443,037	△ 1,033,766
流動資産	5,480,310	5,269,670	210,640
(ア) 資産の部合計	39,649,816	38,205,667	1,444,149
[負債の部]			
固定負債	5,222,676	4,396,718	825,958
流動負債	1,890,169	1,940,026	△ 49,857
(イ) 負債の部合計	7,112,844	6,336,745	776,099
[基本金の部]			
(ウ) 基本金の部合計	33,411,231	32,064,495	1,346,736
[消費収支差額の部]			
(エ) 消費収支差額の部合計	△ 874,259	△ 195,572	△ 678,687
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	39,649,816	38,205,667	1,444,149



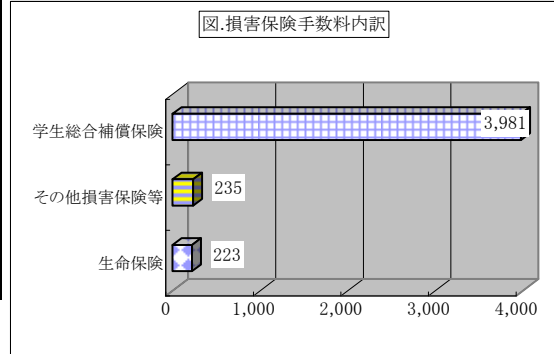
【収益事業会計】 損益計算書(総括表)

(単位:千円)

【図表 損益計算書】

(単位:千円)

科目	本年度	前年度	増減
営業損益			
損害保険手数料	4,438	7,322	△ 2,884
一般管理費	1,162	1,570	△ 408
営業利益	3,276	5,752	△ 2,476
営業外収益	3	4	△ 1
経常利益	3,278	5,756	△ 2,478
一般会計繰入金支出(寄付金)	2,500	4,800	△ 2,300
税引前当期利益	778	956	△ 178
法人税等充当金繰入額	386	600	△ 214
当期純利益	392	356	36



貸借対照表(総括表)

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
流動資産	30,216	32,900	△ 2,684
資産の部合計	30,216	32,900	△ 2,684
[負債の部]			
流動負債	22,198	23,275	△ 1,077
負債の部合計	22,198	23,275	△ 1,077
[純資産の部]			
出資金	1,000	1,000	0
繰越利益剰余金	7,018	8,625	△ 1,607
純資産の部合計	8,018	9,625	△ 1,607
負債・純資産の部合計	30,216	32,900	△ 2,684

※表示金額は全て百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがある。

1 消費収支の推移表

(単位 百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生生徒等納付金	6,385	6,460	6,545	6,370	6,219
手数料	173	170	168	167	187
寄付金	107	90	93	204	251
補助金	1,008	1,067	1,072	1,007	994
その他の収入	562	657	589	419	415
帰属収入合計	8,235	8,444	8,467	8,167	8,066
基本金組入額	△ 554	△ 178	△ 201	△ 367	△ 1,347
消費収入の部合計	7,681	8,266	8,266	7,800	6,719
人件費	5,088	5,415	5,135	4,754	4,811
教育研究経費	1,853	1,879	1,924	2,190	1,962
(内、減価償却額)	( 657 )	( 653 )	( 636 )	( 621 )	( 667 )
管理経費	509	535	627	597	553
(内、減価償却額)	( 60 )	( 57 )	( 54 )	( 52 )	( 56 )
借入金等利息	37	35	32	29	26
その他の支出	46	49	213	259	45
消費支出の部合計	7,533	7,913	7,931	7,829	7,398
消費収支差額	148	353	335	△ 29	△ 679
帰属収支差額	702	531	536	338	668

2 貸借対照表の推移表

(単位 百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
固定資産	32,884	32,906	33,071	32,936	34,170
有形固定資産	18,626	18,505	18,181	18,493	20,760
土地	2,705	2,705	2,705	2,705	2,705
建物	10,890	10,675	10,141	10,597	10,207
その他	5,031	5,125	5,335	5,191	7,848
その他の固定資産	14,258	14,401	14,890	14,443	13,409
長期有価証券	3	10	320	620	920
特定資産	11,471	11,491	11,508	10,947	10,391
(内、退職給与引当特定資産)	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )
(内、施設備維持引当特定資産)	( 9,099 )	( 9,101 )	( 9,102 )	( 8,559 )	( 8,002 )
第2号基本金引当資産	1,950	2,050	2,200	2,000	1,050
第3号基本金引当資産	720	740	760	780	930
その他	114	110	102	96	119
流動資産	3,961	4,868	5,023	5,270	5,480
現金預金	3,720	4,522	4,705	5,066	5,247
短期有価証券	0	0	0	0	0
その他	241	346	318	204	234
資産の部合計	36,845	37,774	38,094	38,206	39,650
固定負債	4,447	4,813	4,678	4,397	5,223
長期借入金	1,655	1,516	1,378	1,239	2,100
退職給与引当金	2,725	2,892	2,893	2,828	2,862
その他	67	405	407	330	261
流動負債	1,936	1,967	1,886	1,940	1,890
短期借入金	139	139	139	139	139
前受金	1,385	1,383	1,252	1,223	1,316
その他	412	445	495	578	435
負債の部合計	6,383	6,780	6,564	6,337	7,113
第1号基本金	28,021	28,078	28,109	28,657	30,804
第2号基本金	1,950	2,050	2,200	2,000	1,050
第3号基本金	720	740	760	780	930
その他	628	628	628	628	628
基本金の部合計	31,318	31,496	31,697	32,065	33,411
消費収支差額の部合計	△ 856	△ 502	△ 167	△ 196	△ 874
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	36,845	37,774	38,094	38,206	39,650

注記

減価償却額の累計額の合計額	11,053	11,202	11,464	11,512	12,178
減価償却資産取得価額	23,138	23,060	22,727	23,187	23,367
基本金未組入額	1,661	1,631	1,538	1,352	2,165

財務比率比較表

財務比率区分			実践女子学園					全国平均	全国平均 (医療法人除)	同規模 法人平均
			H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度			
貸 借 対 照 表 関 係 比 率	1	固定資産 構成比率	89.2	87.1	86.8	86.2	86.2	86.1	87.0	85.1
	2	流動資産 構成比率	10.8	12.9	13.2	13.8	13.8	13.9	13.0	14.9
	3	固定負債 構成比率	12.1	12.7	12.3	11.5	13.2	9.1	7.5	8.0
	4	流動負債 構成比率	5.3	5.2	5.0	5.1	4.8	6.0	5.6	6.2
	5	自己資金 構成比率	82.7	82.1	82.8	83.4	82.1	84.9	86.9	85.8
	6	消費収支差額 構成比率	-2.3	-1.3	-0.4	-0.5	-2.2	-15.0	-10.5	-8.5
	7	固定比率	108.0	106.2	104.9	103.3	105.0	101.5	100.1	99.2
	8	固定長期 適合率	94.2	91.9	91.3	90.8	90.5	91.6	92.2	90.7
	9	流動比率	204.6	247.5	266.3	271.6	289.9	232.1	230.3	240.3
	10	総負債比率	17.3	17.9	17.2	16.6	17.9	15.1	13.1	14.2
	11	負債比率	21.0	21.9	20.8	19.9	21.9	17.8	15.1	16.6
	12	前受金保有比率	268.6	326.9	375.8	414.2	398.7	343.0	311.7	326.4
	13	退職給与 引当資産率	71.0	66.9	66.9	68.5	67.6	56.9	66.1	63.7
	14	基本金比率	94.1	95.0	94.9	95.6	93.9	96.7	97.1	96.5
	15	減価償却比率	47.8	48.6	50.4	49.6	52.1	48.6	46.1	48.1
消 費 収 支 計 算 書 関 係 比 率	1	人件費比率	61.8	64.1	60.6	58.2	59.6	51.3	54.0	51.6
	2	人件費依存率	79.7	83.8	78.5	74.6	77.4	97.6	74.4	80.2
	3	教育研究経費 比率	22.5	22.3	22.7	26.8	24.3	35.9	30.9	31.5
	4	管理経費比率	6.2	6.3	7.4	7.3	6.9	7.1	8.7	8.9
	5	借入金等 利息比率	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.5
	6	帰属収支 差額比率	8.5	6.3	6.3	4.1	8.3	3.1	3.4	5.1
	7	消費収支比率	98.1	95.7	95.9	100.4	110.1	107.8	109.2	107.7
	8	学生生徒等 納付金比率	77.5	76.5	77.3	78.0	77.1	52.6	72.7	64.4
	9	寄付金比率	1.3	1.1	1.1	2.5	3.1	2.2	2.3	1.8
	10	補助金比率	12.2	12.6	12.7	12.3	12.3	10.3	12.4	11.2
	11	基本金組入率	6.7	2.1	2.4	4.5	16.7	10.1	11.6	11.9
	12	減価償却費 比率	9.5	9.0	8.7	8.6	9.8	9.7	11.3	10.9

(注) 1.総資産＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

2.学園以外の数値は平成23年度(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」平成24年度版より転用)。

[財務比率説明表]

貸借対照表関係比率

分類	番号	比率名	算式	評価
自己資金は充実しているか	5	自己資金構成比率	$(基本金+消費収支差額) \div 総資産$	△
	6	消費収支差額構成比率	$消費収支差額 \div 総資産$	△
	14	基本金比率	$(第1号)基本金 \div 基本金要組入額$	△
長期資金で固定資産は賄われているか	7	固定比率	$固定資産 \div 自己資金$	▼
	8	固定長期適合率	$固定資産 \div (自己資金+固定負債)$	▼
資産構成はどうなっているか	1	固定資産構成比率	$固定資産 \div 総資産$	▼
	2	流動資産構成比率	$流動資産 \div 総資産$	△
	15	減価償却比率	$減価償却累計額 \div 減価償却資産取得価額$	～
負債に備える資産が蓄積されているか	9	流動比率	$流動資産 \div 流動負債$	△
	12	前受金保有比率	$現金預金 \div 前受金$	△
	13	退職給与引当金資産率	$退職給与引当特定資産 \div 退職給与引当金$	△
負債の割合はどうか	3	固定負債構成比率	$固定負債 \div 総資産$	▼
	4	流動負債構成比率	$流動負債 \div 総資産$	▼
	10	総負債比率	$(固定負債+流動負債) \div 総資産$	▼
	11	負債比率	$(固定負債+流動負債) \div 自己資金$	▼

消費収支計算書関係比率

	番号	比率名	算式	評価
経営状況はどうか	6	帰属収支差額比率	$(帰属収入-消費支出) \div 帰属収入$	△
収入構成はどうなっているか	8	学生生徒等納付金比率	$学生生徒等納付金 \div 帰属収入$	～
	9	寄付金比率	$寄付金 \div 帰属収入$	△
	10	補助金比率	$補助金 \div 帰属収入$	△
支出構成は適切であるか	1	人件費比率	$人件費 \div 帰属収入$	▼
	3	教育研究費比率	$教育研究費 \div 帰属収入$	△
	4	管理経費比率	$管理経費 \div 帰属収入$	▼
	5	借入金等利息比率	$借入金等利息 \div 帰属収入$	▼
	11	基本金組入率	$基本金組入額 \div 帰属収入$	△
	12	減価償却費比率	$減価償却額 \div 消費支出$	～
収入構成と支出のバランスはとれているか	2	人件費依存率	$人件費 \div 学生生徒等納付金$	▼
	7	消費収支比率	$消費支出 \div 消費収入$	▼

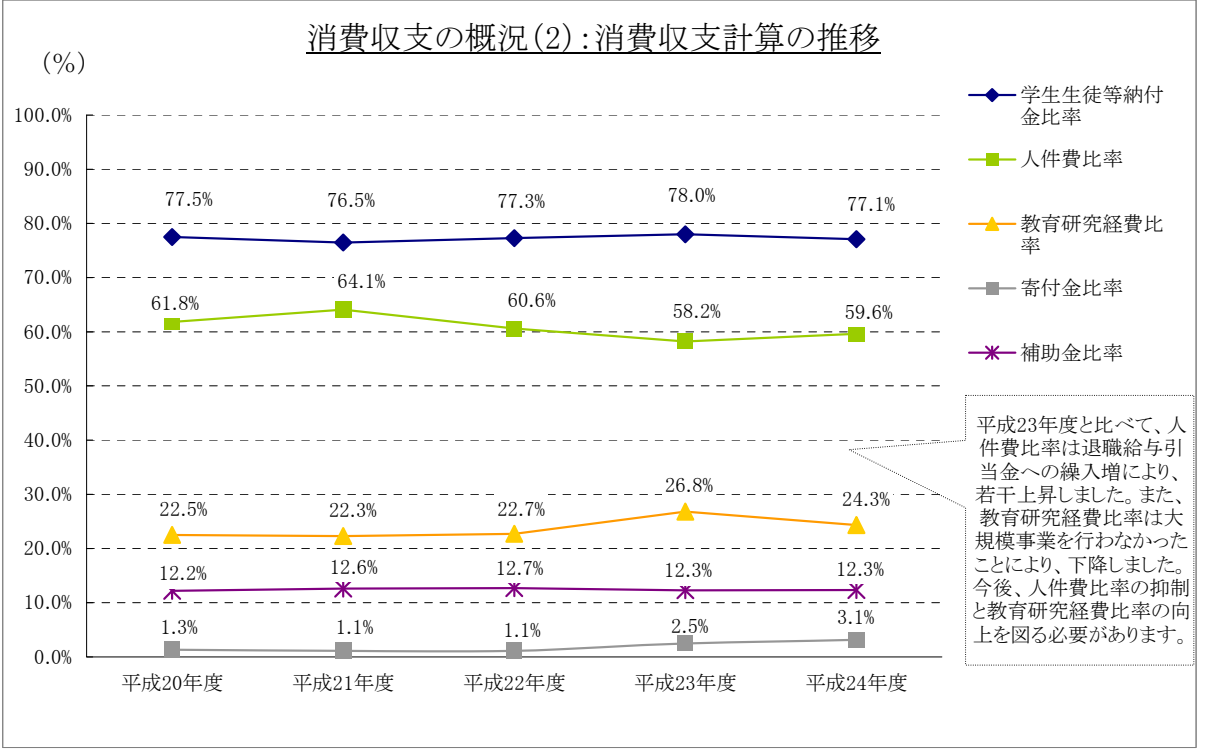
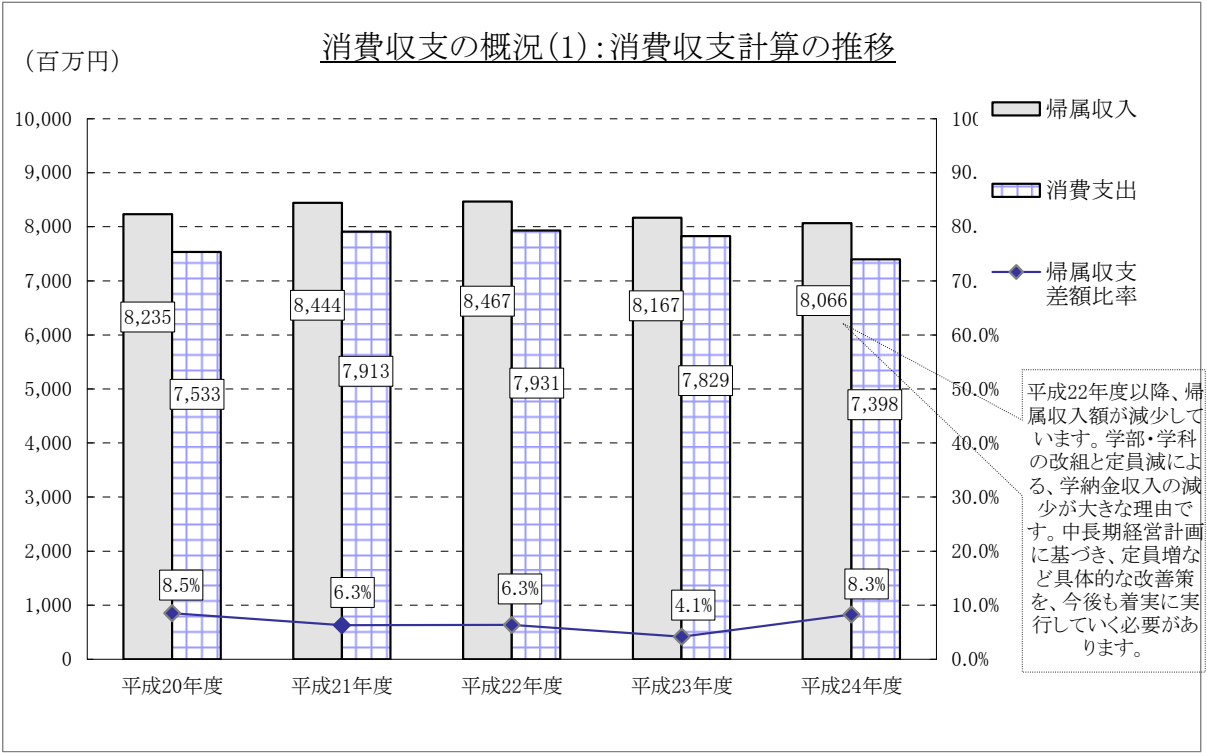
(注)1.財務比率の評価は、個々の学校法人に適用する場合に内部事情等を個別に判断しなければ、一概にその良否をいえませんが、日本私立学校振興・共済事業団では財務比率の高低の評価を次のとおりとしました。

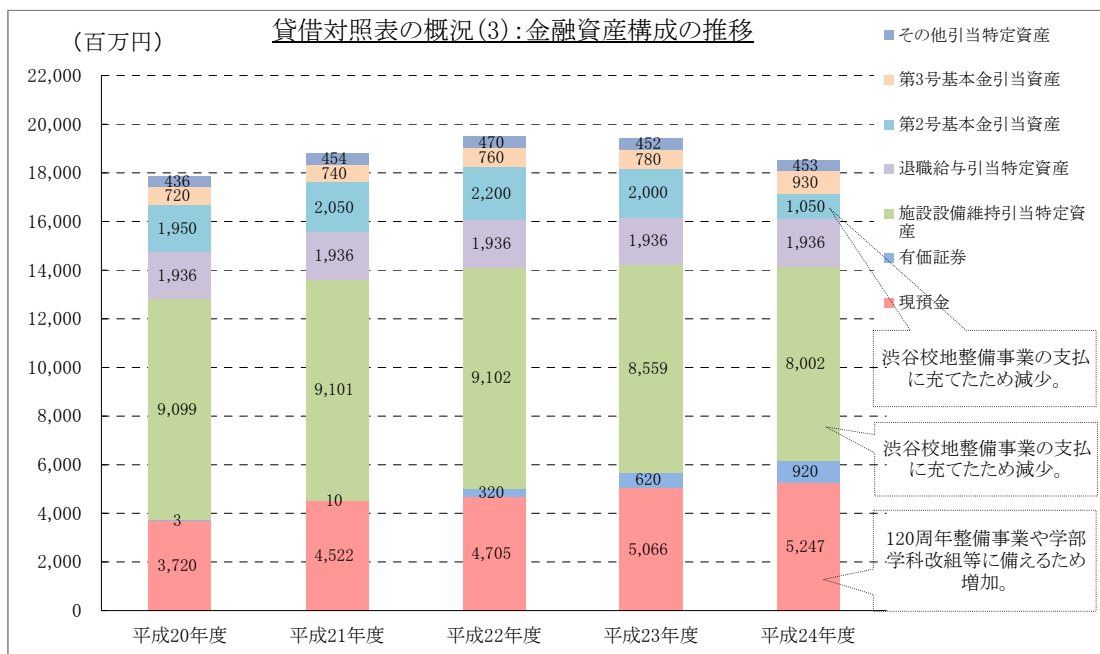
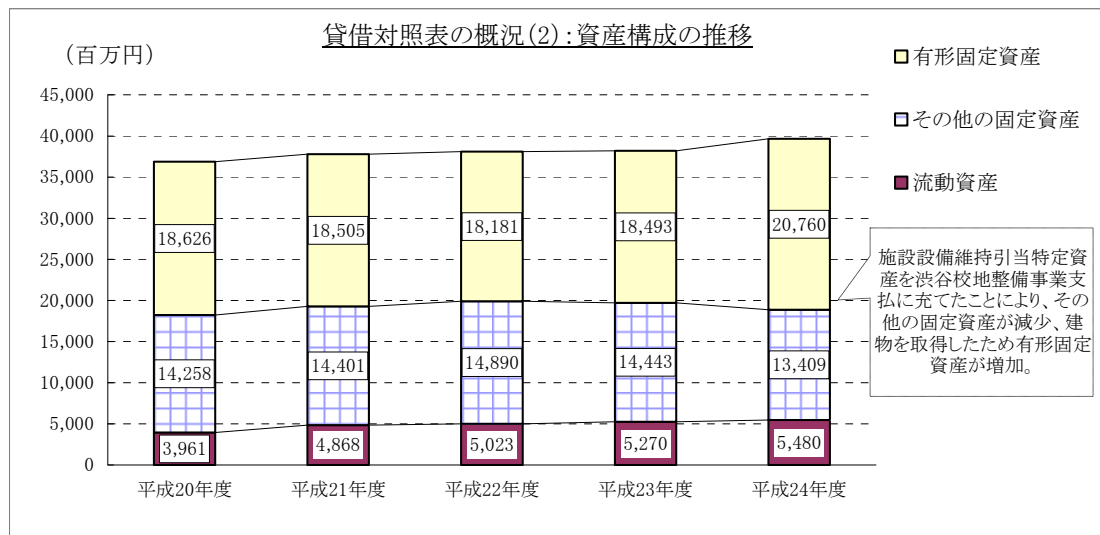
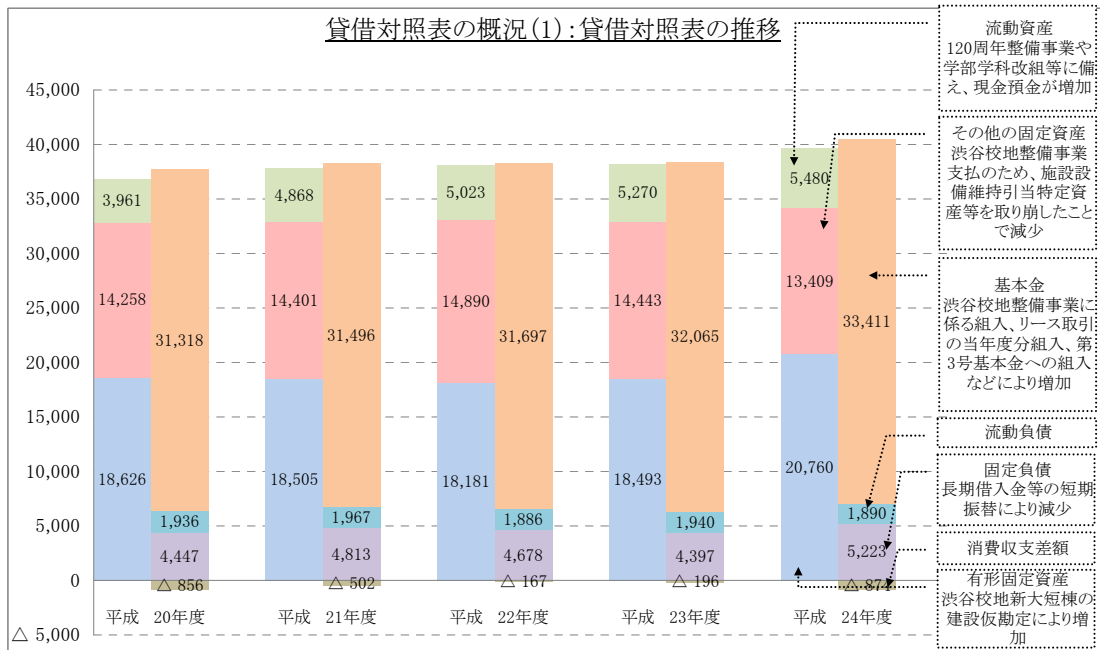
△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

(注)2.総資産＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

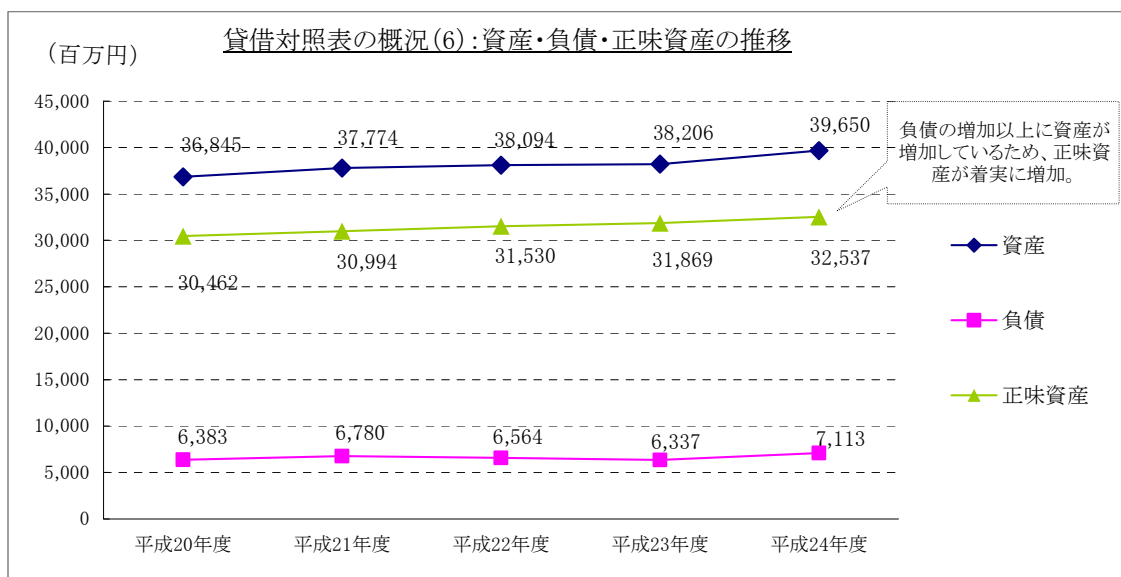
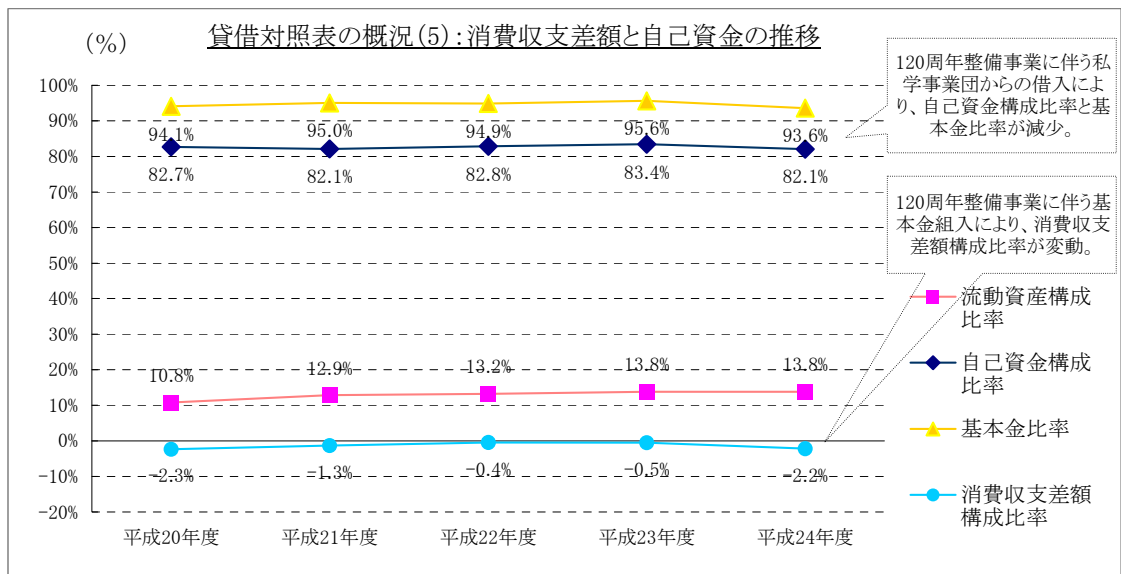
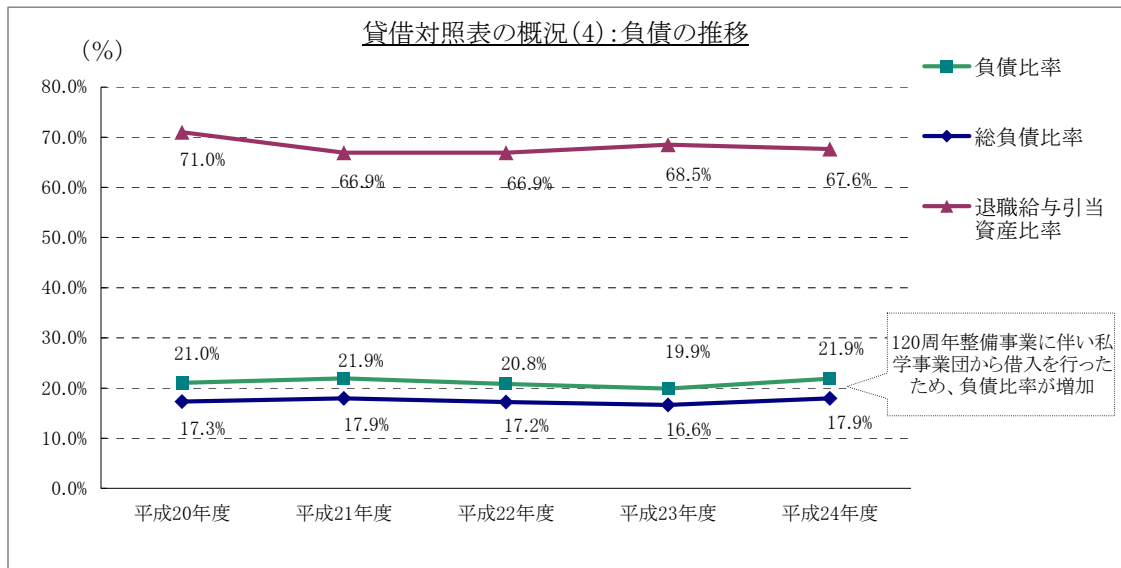
(注)3.番号は財務比率の区分を示しています。

(注)4.形式および注記は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」H23年度版より転用しました。









※表示金額は全て千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがある。

[消費収入の部]

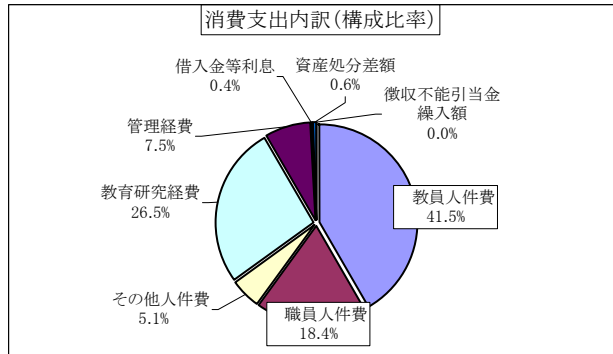
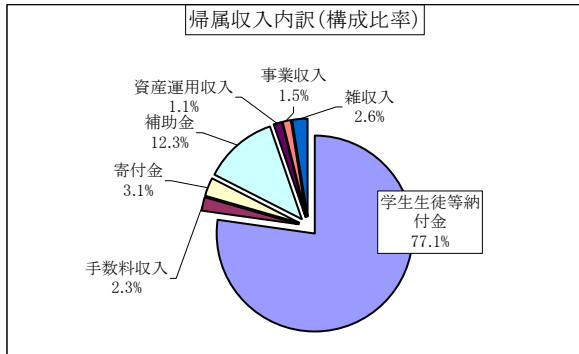
(単位:千円)

科目	法人本部	構成比	大学	構成比	短期大学	構成比	中高	構成比	合計	構成比
学生生徒等納付金	0	0.0	4,273,207	84.1	606,193	76.6	1,339,709	62.8	6,219,110	77.1
手数料収入	0	0.0	150,753	3.0	10,309	1.3	25,669	1.2	186,732	2.3
寄付金	0	0.0	153,558	3.0	19,164	2.4	78,258	3.7	250,980	3.1
補助金	0	0.0	304,780	6.0	102,110	12.9	586,644	27.5	993,534	12.3
資産運用収入	12,038	20.1	41,543	0.8	23,878	3.0	13,841	0.6	91,300	1.1
事業収入	34,941	58.4	48,842	1.0	25,090	3.2	8,318	0.4	117,192	1.5
雑収入	12,898	21.5	107,926	2.1	4,370	0.6	81,681	3.8	206,874	2.6
帰属収入合計	59,878	100.0	5,080,611	100.0	791,115	100.0	2,134,119	100.0	8,065,722	100.0
基本金組入額合計	△ 2,146	-3.6	△ 1,004,540	-19.8	△ 151,549	-19.2	△ 188,501	-8.8	△ 1,346,736	-16.7
消費収入の部合計	57,732		4,076,071		639,566		1,945,618		6,718,986	

[消費支出の部]

(単位:千円)

科目	法人本部	構成比	大学	構成比	短期大学	構成比	中高	構成比	合計	構成比
人件費	317,503	80.6	2,535,720	63.5	647,155	60.7	1,310,954	67.3	4,811,332	65.0
教員人件費	0	0.0	1,633,520	40.9	392,373	36.8	1,047,357	53.7	3,073,250	41.5
職員人件費	235,430	59.8	795,769	19.9	217,076	20.4	109,298	5.6	1,357,572	18.4
その他人件費	82,073	20.8	106,432	2.7	37,707	3.5	154,299	7.9	380,510	5.1
教育研究経費	0	0.0	1,114,363	27.9	310,925	29.2	537,150	27.6	1,962,438	26.5
管理経費	76,215	19.4	317,201	8.0	79,367	7.4	80,096	4.1	552,879	7.5
借入金等利息	0	0.0	6,288	0.2	0	0.0	20,161	1.0	26,449	0.4
資産処分差額	12	0.0	16,211	0.4	27,674	2.6	386	0.0	44,283	0.6
徴収不能引当金繰入額	0	0.0	0	0.0	293	0.0	0	0.0	293	0.0
消費支出の部合計	393,730	100.0	3,989,783	100.0	1,065,413	100.0	1,948,747	100.0	7,397,673	100.0
当年度消費収支差額	△ 335,998		86,288		△ 425,847		△ 3,129		△ 678,687	
当年度帰属収支差額	△ 333,852		1,090,828		△ 274,298		185,372		668,049	



[財務比率比較表]

財務比率区分		学園	A法人	B法人	C法人	D法人	同規模法人平均
1	人件費比率	59.6	52.1	53.9	58.9	60.4	51.6
2	人件費依存率	77.4	68.3	67.9	76.2	76.0	80.2
3	教育研究経費比率	24.3	28.1	27.2	33.7	23.7	31.5
4	帰属収支差額比率	8.3	10.4	11.1	1.7	7.9	5.1
5	消費収支比率	110.1	95.7	95.0	101.7	96.1	107.7
6	学生生徒等納付金比率	77.1	76.2	79.4	77.3	79.5	64.4
□	教育研究経費構成比率	26.5	31.3	30.5	34.3	25.8	
□	負債償還比率	2.0	4.1	3.3	0.9	4.2	

(注) 本学以外の数値は、平成23年度首都圏所在女子大学法人の数値。